日本財団 The Nippon Foundation 助成事業

３．１１　東日本大震災被災者支援実践記録

花巻・被災妊産婦等
受入れ事業 報告書

～ あかちゃんに 心の花束 おくります ～

平成２３年９月

日本助産師会岩手県支部中央区会

お産と地域医療を考える会

花巻市民活動ネットワーク協議会

被災妊産婦支援事業等報告書

目　　次

ご挨拶 ……1

Ⅰ　事業概要

1　事業の発端と開始までの経過 ……3

2　構成団体と業務体制 ……5

3　事業の流れ ……6

Ⅱ　事業実績

1　事業計画と実施結果 ……9

2　事業予算と決算 ……16

3　花巻での事業参加者 ……17

4　支援物資の受入れと配布 ……18

5　支援元団体 ……19

Ⅲ　事業関係者の所感

1　助産師 ……20

2　家事ボランティア ……21

3　ママボランティア ……23

4　健考館アネックス ……24

5　入所者 ……25

6　事務局 ……29

Ⅳ　関係資料 ……37

Ⅴ　編集後記 ……51

ご　挨　拶

平成 23 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分、東日本大震災と巨大津波が発生しました。この時を境にして、東日本全体は一挙にその生活態様が根底から覆りました。インフラが殆ど壊滅状態の中で、直ちに各地で救難活動が、開始されました。

しかし、私は、東京で行われた会議に出席したため、帰宅難民となり花巻帰着は 3 月 17 日になりました。その時既にはなネットの会員はそれぞれの立場で救難活動に当っておりました。3 月 23 日に漸くはなネット役員事務局会議を開くことができ、その場で木村清且さん紹介の助産師佐藤美代子さんから被災妊産婦の産前産後の窮状と支援の必要性が切々と訴えられたことに出席者全員がその緊急措置の必要を感得し、即行動を起こしました。

会員それぞれの地縁、血縁を生かし、ある者は行政の組織を生かして情報収集と情報のルート化を図り、ある者は活動の要となる受け入れ施設の確保に走り、助産師会とお産と地域医療を考える会は、妊産婦の介助と家事支援を行うための人員を確保し、ある者は県沿岸広域振興局、釜石市、大槌町、県立釜石病院と中部病院や花巻市沿岸被災市町村支援本部との協働で避難者情報の把握と当該施設への該当者の誘導を行い、あるいは花巻市医師会及び産婦人科医院並びに小児科医院との連携を図るなど、極めて短期間のうちに被災妊産婦支援のネットワークを作り上げました。

そして、4 月 18 日に初めての被災産婦家族 4 人の方々をお迎えしました。以降 8 月 13 日退所された 1 家族まで計 7 家族のお世話を致しました。この間、施設を提供下さった健考館アネックス様、被災妊産婦の産前産後のケアに当られた助産師の皆様及び被災妊産婦家族の家事一切のお世話をして下さった家事ボランティア・ママボランティアの皆様には本当にご苦労さまでした。皆様方の働きは、退所された方々からのお便りにもはっきりと感謝の意となって現れております。更に、毎週のように嬰児の診察にお出で頂いた川嶋先生、妊産婦同伴の子供たちに対する遊びや学びを指導下さった望月さん、そして何より、煩雑な事務を統括してこの事業の運営をして下さった若菜さん、大変お疲れ様でした。

また、発足当初から早速ご支援下さったいわて子育てネット様、ゆかわ脳外科全体で集められた義援金をわざわざお届け下さった湯川先生に、厚く御礼申し上げます。この資金のおかげで、事務経費や、運営上の必要経費を賄う事が出来ました。さらに、本体事業の運営については日本財団様の助成が本当に役立ちました。

このように非常に多くの皆様のご尽力とご協力のおかげで、行政、事業所等と市民活動団体の協働の成果として、被災妊産婦事業が終了できたことは非常に喜ばしく、ここに被災妊産婦等受入れ事業報告書として記録に残すことと致しました。今後再度斯様な事態発生の際には参考として頂けましたら幸いでございます。以上事業報告に当りましてご挨拶申し上げます。

平成２３年９月

花巻市民活動ネットワーク協議会(略称「はなネット」)

代表　中台照幸

被災された妊産婦さんとご家族を

花巻で受け入れます

受入れ施設　　「健考館アネックス」

〒028-3182　岩手県花巻市石鳥谷町松林寺 3-76-2

TEL **0198-46-1212**　FAX**0198-46-1211**　mail：kenkoukan_a-m.l@echna.ne.jp

対象となる方	被災され、自宅に住むことができなくなった妊産婦とそのご家族
施設利用内容	宿泊、食事、入浴等　（行政・施設の支援で無料です。） （食事と運動指導による母児健康無料支援を含みます。）
お産する病院	県立釜石病院・中部病院・大船渡病院、花巻市内産婦人科医院等 （病院間のほか、この施設と病院間等も移動は無料です。）
助産師による訪問ケア等	授乳・沐浴の指導、育児相談、保健指導、家事ボランティア等 （無料です。必要に応じて市内の医院の紹介・受診が可能です。）
受入れ期間	仮設住宅等、地元に帰ることができる環境が整うまで
その他	救援物資により母子必要品を無料で提供します。
申込み先	県立釜石病院　0193-25-2011 花巻市沿岸被災市町村支援本部　0198-24-2111
問合せ先	はなネット事務局　若菜　080-1218-7881 佐藤　090-4312-4697 村井　090-2606-8178

［協力機関］　健考館・来久保医院　県立釜石・中部・大船渡病院　日本助産師会県支部　花巻市医師会　県産婦人科医会　釜石市　大槌町　花巻市　県沿岸広域振興局　いわて結いっこ花巻支部　お産と地域医療を考える会　いわて子育てネット　花巻市民活動ネットワーク協議会（はなネット）

Ⅰ　事業概要

１　事業の発端と開始までの経過

⑴　発端

平成２３年３月１１日に発生した東日本大震災と巨大津波災害に対するはなネットの対応を協議するための「はなネット役員事務局会議」が、もろもろの事情が重なり、ようやく３月２３日に開催されました。席上、色々と対応可能分野を探ろうとした矢先に、木村副代表から助産師の佐藤美代子さんを紹介され、「今、被災地で一番困っていて且つ目立たないのが産後母子のケアである。産院は産後４日で退院させるが、退院後は避難所に戻るしかない。しかし、避難所はとても産後の母子が生活できる環境ではない。是非当地に避難して、平穏に産後を過ごし、母子の体力が整い、被災地に帰れる日までケアすることが必要であり、それを『はなネット』で取り組めないか」と提案されました。出席者一同は大きくその意義を感じ、早速「はなネット」として最初に取り組むべき課題としてこれを取り上げました。

⑵　開始までの経過

①　内陸市町村による被災者一時受入れ

３月１１日大震災発生の当日、厚生労働省から都道府県と全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会に対して、要援護者への緊急対応の協力要請が行われました。これを受けて、岩手県では内陸市町村での被災者一時受入れ施設を募集し、宿泊・食事・入浴の費用を災害救助法に基づいて県費で支援することとしました。花巻市内では「花巻旅館ホテル生活衛生同業組合（事務局花巻温泉㈱）」と石鳥谷の「健考館」が３月１７日までに応募していました。

また、花巻市では３月１８日に「花巻市沿岸被災市町村支援本部」を立ち上げ、被災者の一時受入れ準備を開始しました。

②　「はなネット」としての支援始動

県内各地で被災者支援活動が始まり、１５日には会員から「はなネット」としての活動の呼びかけがありました。３月１８日には、立ち上がったばかりの「いわて結いっこ花巻支部」と支援協力について協議し、２０日には市にボランティア参加を申込むとともに、「いわて結いっこ花巻支部」での支援物資の提供・分別・送出しや、まなび学園での畳敷きなどの支援活動を開始しました。

③　被災妊産婦ケア事業への取組みを決定

３月２３日に「はなネット役員事務局会議」を開催し、はなネットしては現地支援よりも避難者対応の後方支援が適当と判断し、木村副会長から紹介された佐藤美代子助産師による被災妊産婦支援の必要性を訴えるお話から、その重要性を改めて認識し、災害支援の基軸活動に据えることとしました。

④　関係機関・団体との調整

翌２４日から、次のとおり関係機関・団体と、被災妊産婦ケア事業への連携について協議・調整を進めました。

３月２４日　花巻市こども課、花巻温泉㈱（花巻旅館ホテル生活衛生同業組合事務局）、石鳥谷・来久保医院（院長似内裕氏・健考館経営）を訪問して対応をお聞きするとともに、被災妊産婦の受入協力を要請

２５日　被災妊産婦受入事業計画・被災妊産婦等への支援体制・被災妊産婦等の受け入

れ手順の案（初版）を作成、関係機関・団体との協議・調整の資料に

２８日　県立釜石病院・中部病院と花巻市こども課に協力を要請

「日本助産師会岩手県支部」と「お産と地域医療を考える会」から協力の確約

２９日　花巻市医師会・県立中部病院と花巻市沿岸被災市町村支援本部を訪問、連携を依頼

３０日　県沿岸広域振興局と振興局経由で釜石市・大槌町に連携を依頼

３１日　花巻医師会から協力表明

県沿岸広域振興局・県立釜石病院・釜石市・大槌町が連携を了解

受入れ施設を健考館に内定

４月　１日　被災妊産婦受入れ案内チラシの案（初版）を作成

健考館を訪問し、資料を配布して具体的内容を協議

花巻市保健センターへ協力依頼

花巻太陽の子保育園（花巻市法人立保育園協議会）に妊産婦同伴幼児の保育協力を依頼

４日　花巻市沿岸被災市町村支援本部と事業実施の最終調整

⑤　協働体制の構築

４月５日、以上の協議調整の結果、

受入れ施設	健考館アネックス
分娩施設	県立釜石病院・中部病院、工藤産婦人科医院、ＫＵＢＯクリニック
現地案内機関	県沿岸広域振興局、釜石市、大槌町
受入れ決定機関	花巻市沿岸被災市町村支援本部（岩手県地域振興室・復興局との窓口）
妊産婦等ケア	「日本助産師会岩手県支部中央区会」等の助産師有志 「お産と地域医療を考える会」を中心とする家事ボランティアとママボランティア
医療支援	花巻市医師会（川嶋婦人科医院）
（事務局	はなネット）

の皆様のご理解とご協力のもとに、「市民団体」「行政機関」「民間事業所」の広範な機関・団体による協働体制を構築することができました。

⑶　事業の開始

４月７日に「はなネット役員事務局会議」を開催し、事業計画、移送手順、連絡網、案内チラシ等に基づいて協議のうえ「被災者支援グループ」の設立を承認し、事業を開始しました。

実務上は、４月１８日に１組目の母子をお迎えし、スタートしました。

⑷　資金・物資支援

①　災害救助法による支援

岩手県では、政策地域部地域振興室（後に復興局）が窓口となり、被災者の沿岸市町村から内陸市町村への一時避難施設を募集し、その施設に対して宿泊・食事・入浴の費用として一日一人５，０００円を災害救助法に基づいて支援することとしました。

健考館でもこの内陸一時避難所として応募したことから、花巻市が被災妊産婦さんとそのご家族の避難所として指定し、県費支援を受けることができました。

なお、県費支援については、県児童家庭課・地域福祉課の親切なご指導をいただきました。

② ＮＰＯ法人「いわて子育てねっと」からの支援

県内では盛岡でＮＰＯ法人「いわて子育てねっと」がいち早く被災妊産婦ケアに立ち上がっており、花巻での立ち上げに当たってご指導をいただきました。さらに、岩手県産婦人科医会長のお口添えもあって、４月５日には支援金提供の申し出をいただき、７日に３０万円の支援をいただきました。

③ 日本財団からの助成

３月３０日に日本財団による東日本大震災支援助成金情報を入手し、４月７日の「はなネット役員事務局会議」での承認を経て８日に１００万円の助成申請を行いました。一度は落選しましたが、改めて４月２１日に申請どおり助成決定のお知らせをいただきました。

④ ゆかわ脳外科の皆様からの寄付

５月１８日に、花巻市のゆかわ脳外科の役職員・患者の皆様から、一般の義援金ではなく、ぜひ妊産婦ケア事業にと、２０５，１６１円のご寄付をいただきました。

⑤ 物資支援

着の身着のままで避難して来られた被災妊産婦さんとそのご家族の生活用品、特にも新生児の育児用品などについて、「いわて結いっこ花巻支部」、「いわて子育てねっと」や岩手医科大学等に寄せられた物資の中から多くの支援をいただきました。

以上、多くの皆様のご理解とご協力により花巻での被災妊産婦ケア事業を開始することができました。

２ 構成団体と業務体制

⑴ 構成団体

受入れ施設	健考館アネックス
分娩施設	県立釜石病院・中部病院、工藤産婦人科医院、ＫＵＢＯクリニック
現地案内機関	県沿岸広域振興局、釜石市、大槌町
受入決定機関	花巻市沿岸被災市町村支援本部（県地域振興室・復興局との窓口）
妊産婦等ケア	「日本助産師会岩手県支部中央区会」等の助産師有志 「お産と地域医療を考える会」を中心とする家事ボランティアと、ママボランティア
医療支援	花巻市医師会（来久保医院・川嶋小児科医院・宮内婦人科医院）
事務局	はなネット

⑵ 業務体制

① ケア体制

・ 助産師は、原則、１３：００−１６：００常駐し、適宜、健康チェックし、ママと子らの健康管理を担う。

・ 家事援助者は、１０：００−１６：００の時間帯に２交替で、保育・食事介助・入浴介助など適宜必要に応じてケアする。

② 嘱託医

・ 宮内婦人科・・水曜の午後往診（ボランティア・要事前申し込み）

・　川嶋小児科・・木曜の午後往診（ボランティア・定期巡回）

③　移送体制（６人乗りワゴンほか、乗車人数による一般車使用）

事前の申し込みを原則とし、以下の４系統についてアネックスによる無償移送を行った。

アネックス―来久保医院、アネックス―県立中部病院、アネックス―宮内婦人科

アネックス―市内避難所

⑶　使用物品供給体制

衛生材料・紙おむつ・洗剤・赤ちゃんの衣類など、日常の必要物品を常備し、家事ボランティアの管理の下、使用者の求めに対応して、適宜自由に使用できる環境を整えた。

⑷　帳票等整備

台帳類

健康管理台帳・・個人別にファイル化し、日誌形式にて健康状態・相談状況・担当者名等記録。

家事援助台帳・・日誌形式にて、支援内容や担当者名も記載。

支援者日報・・・氏名・従事時間等記載

来訪者台帳・・・来訪者の確認チェック

入所者台帳（市の規定様式）

医療機関リスト

⑸　インフォメーション

・　利用者案内、館内案内、医療機関リストなどをインフォメーション冊子に綴り込んで、各室常備。

・　バス路線図、岩手日報・いわて日日の新聞及び、釜石情報など現地ニュースをフリースペースに常備。

＊新聞提供：健考館アネックス

⑹　安全配慮

・　入所者の安全確保のため、アネックスに立ち入る者は全員、名札を下げる。来訪者はカウンターにて、来訪者台帳に記名し、名札を受け取る。

・　入所者ガイダンスに、アネックス側から施設利用の説明の際に、避難経路を口頭で説明し、各室配備のインフォメーションにも避難路記載の施設図を綴じ込む。

３　事業の流れ

⑴　手続き書類の流れ

・　移動意思確認、移動申込み、キャンセルとも、同一の送付系統による。

・　移動意思確認とキャンセルは電話送付、移動申込みは申込書の Fax による。

ただし、大槌町は電話回線回復までは携帯電話による。

・　送付手順は、以下による。

ア　妊産婦が釜石管内で避難している場合

①　釜石病院、釜石市、大槌町等が、妊産婦に仕組みを紹介する。

②　妊産婦は、釜石病院に宿泊施設への一時移動申込書・被災状況確認書にて申込む。（本来、沿岸広域振興局または釜石市・大槌町に申し込むこととなっているが、県の機関として、

釜石病院が振興局に代わってワンストップで対応するもの。以下同。）

③　釜石病院は、沿岸広域振興局保健福祉環境部企画管理課と、中部病院・工藤医院・KUBOクリニックに送付する。

④　沿岸広域振興局保健福祉環境部企画管理課は、宿泊施設への一時移動申込書・被災状況確認書を釜石市又は大槌町に送付する。

⑤　釜石市又は大槌町は、花巻市沿岸被災市町村支援本部に宿泊施設への一時移動申込書・被災状況確認書を送付する。

⑥　花巻市沿岸被災市町村支援本部は、健考館に宿泊施設への一時移動申込書・被災状況確認書を送付する。

⑦　健考館は、はなネット事務局に送付する。

イ　妊産婦が既に花巻等に避難している場合

①　花巻市沿岸被災市町村支援本部、中部病院、工藤医院等が、妊産婦に仕組みを紹介する。

②　妊産婦は、花巻市沿岸被災市町村支援本部に宿泊施設への一時移動申込書・被災状況確認書を申込む。

③　花巻市沿岸被災市町村支援本部は、健考館と釜石市又は大槌町に宿泊施設への一時移動申込書・被災状況確認書を送付する。

④　釜石市又は大槌町は、沿岸広域振興局保健福祉環境部企画管理課に宿泊施設への一時移動申込書・被災状況確認書を送付する。

⑤　健考館は、はなネット事務局に宿泊施設への一時移動申込書・被災状況確認書を送付する。

⑥　健考館は、花巻市沿岸被災市町村支援本部に花巻市受け入れ世帯表を送付し、花巻市民活動ネットワーク協議会は、褥婦面接記録票・健康記録票を花巻市沿岸被災市町村支援本部に送付する。

⑵　移送

①　釜石病院から中部病院・工藤医院・KUBOクリニック・健考館アネックスは、釜石病院車による。

②　中部病院・工藤医院・KUBOクリニックから健考館は、健考館車による。

③　花巻等の避難所から健考館の間は、健考館車による。

④　妊産婦が希望する場合は、①～③によらず、家族等の自家用車による。

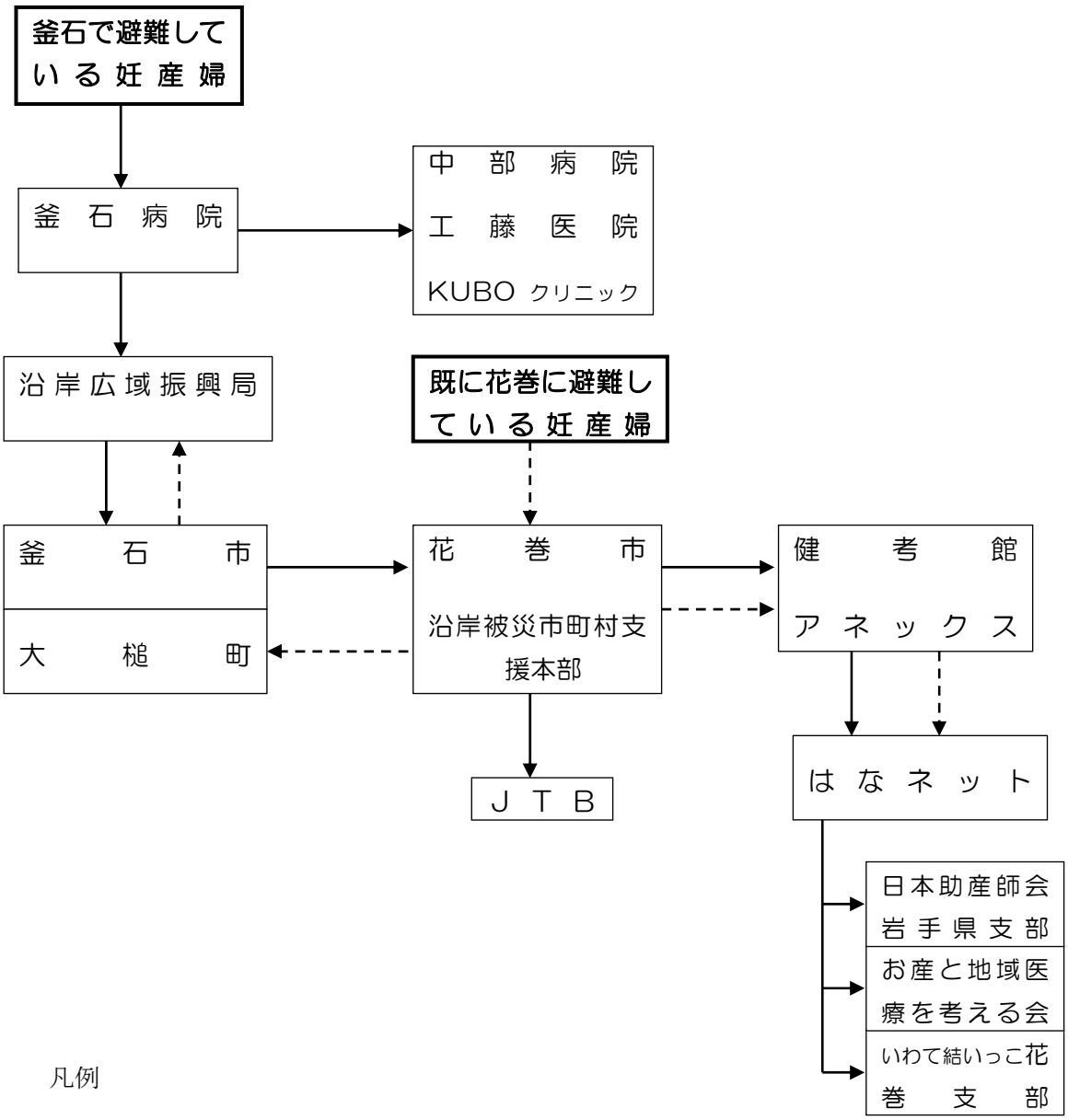
⑤　花巻等の個人宅から健考館は、家族等の自家用車等による。

（参考：健考館から市中心部へは、１日２往復の健考館車による。）

⑶　報告

健考館とはなネットは、受入れ後の支援状況を花巻市沿岸被災市町村支援本部に、花巻市受け入れ世帯表・褥婦面接記録票・健康記録票にて報告する。

連絡系統図



凡例

→ 釜石で避難している場合の連絡の流れ

- - - → 既に花巻に避難している場合の連絡の流れ

Ⅱ　事業実績

１　事業計画と実施結果

⑴　事業計画

釜石・大槌地域被災妊産婦等の受入れ事業（当初計画）

～　あかちゃんに　心の花束　おくります　～

事業目的　　この事業は、釜石市、大槌町等で東日本大地震とそれに伴って発生した大津波によって被災し、出産後の現地での生活が困難な新生児と母親及びその家族について、花巻市の指定避難所に受入れ、関係機関が協働してその生活を支援することを目的として実施する。

協力団体（予定）
岩手県沿岸広域振興局
岩手県立釜石病院・中部病院
花巻市医師会
花巻市・釜石市・大槌町等
日本助産師会岩手県支部
いわて・結いっこ花巻支部
お産と地域医療を考える会
花巻市民活動ネットワーク協議会（はなネット）

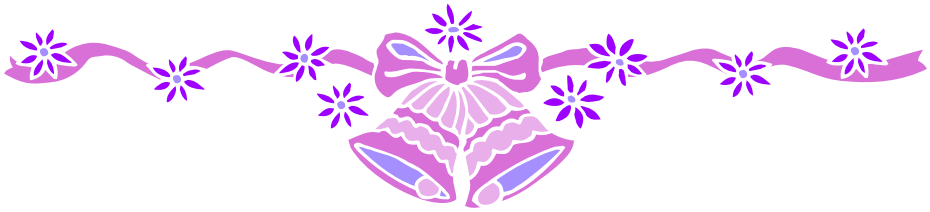
対象　主として釜石市と大槌町で被災した新生児、母親とその家族
（出産場所は問わない。）

受入施設　災害救助法による避難所　「健考館アネックス」

期間　出産後退院した日から地元へ帰ることが適切と判断されるまでの間
（概ね１～２ヶ月を想定。）

支援内容
①　県の受入れ経費負担による宿泊、食事及び入浴
②　助産師による育児指導
③　関係機関との連携による身体的・精神的保健指導
④　救援物資による生活物品の提供
⑤　中部病院からの移送

申し込み　花巻市民活動ネットワーク協議会（はなネット）
統括事務局　花巻市民活動ネットワーク協議会



妊産婦ケア事業

～　あかちゃんに　心の花束　おくります　～

妊娠・出産、誠に、おめでとうございます。
ようこそ、「健康館アネックス」へお越しいただきました。
皆様方には、このたびの震災を乗り越えられましたこと、ここまで、大変な思いをされて来られたのではないかと拝察申し上げます。

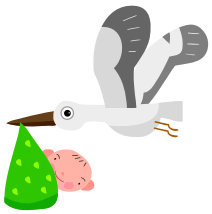
新しい命を育まれんとされるお母様方には、ゆったりとした環境の中で母体の回復と、安心し落ち着いた環境で子育てができますよう、私たち関係者一同、心をこめてお手伝いさせて頂きたいと存じます。
花巻の「妊産婦ケア」事業は、花巻市医師会、岩手県産婦人科医会、日本助産師会岩手県支部など、多くの関係医療機関との連携で、皆様方の産後や育児などのケアをさせて頂きます。助産師などに、産後や育児上の不安や疑問点など、遠慮なくお声をおかけください。また、こちらからもお伺いさせていただきます。ゆっくりご相談できるよう、キッズルーム内に相談コーナーも設けております。
なお、風邪をひいたようだ、頭が痛い、湿疹が・・といった心身の不調は遠慮なくお申し出願います。必要に応じ、医療機関への送迎も準備しております。
さらに、産後のケアに必要な諸物品や、新生児の育児等に必要とする諸物品もご用意しております。遠慮なくご利用下さい。

なお、「健康館アネックス」のご利用期間は、主として、産後1-2カ月が目安ではございますが、住まいの環境が整えられる迄の期間、ご利用できるよう計らって参りたいと存じます。
なんでも気になる点がございましたら、遠慮なくお申し出下さい。

花巻市民活動ネットワーク協議会（はなネット）

妊産婦ケア事業・事務局　若菜多摩英

ようこそ　花巻へ
助産師が母子ケアを担当します



ようこそ　花巻へ

私たちは日本助産師会岩手県支部の助産師です

普段は病院や地域の保健センターなどで働いています

皆さまが花巻で少しでも不安が少なく過ごせるように

お母さんや赤ちゃんを中心に皆さまのケアをさせていただきます

どうぞ　遠慮なく　相談してくださいね

助産師は女性の味方です（＾ｖ＾）／

＜毎日１３時～１６時常駐＞

・沐浴の指導や援助
・母乳の飲ませ方や授乳の相談
・育児相談全般
・家族計画などの相談
・妊婦さんのケア
・アロマテラピーや骨盤ケア

などなど

私たちは家事ボランティアです

私たちは家事ボランティアです。主に産後の養生が必要なお母さんのお手伝いをしています。
声をかけて中心となっているのは「お産と地域医療を考える会」という花巻の市民グループです。
今回はそのメンバーが周りにも声をかけて、花巻近郊の有志を募り、ボランティアをしております。

毎日１０時から１６時まで常駐しています。

＜家事ボランティア内容＞

- 産後のお母さんの洗濯全般
- 産後のお母さんの居室の整理整頓
- 上のお子さんの遊び相手
- 入浴時の赤ちゃんの見守り
- 沐浴準備や後かたずけ
- キッズルームの整頓
- 物資の整理整頓
- ミルトンの消毒液交換（１０時）

その他、なんでもお声をかけて下さい。
皆、花巻近郊の女性達です。花巻のお店など、生きた情報提供もできます。
よろしくお願いいたします。

⑵　実施結果

○　妊産婦ケア事業の特徴

新しい命を育もうとする妊産婦さんたちに、ゆったりとした安心し落ち着いた環境の中で母体の回復と子育てができるよう、産後や育児上の不安や疑問点などに対応するため、助産師が、13：00-16：00 に常駐するほか、家事ボランティアは一日２交替の 10:00-13:00,13:00-16:00 の常駐体制で、洗濯や様々身の回りのお世話や上のこの遊び相手になったりときめ細かな対応をしてきました。（後期は、午後の体制のみで実施。）また、ゆっくりご相談頂けるよう、キッヅルーム内に相談コーナーも設けてきました。

この事業の利用者は、県立釜石病院等、産婦人科の医療機関でキャッチした被災妊産婦さん方に妊産婦ケアの事業案内が行われて、その情報が関係機関を経由して健考館アネックスとはなネットに届き、来所された妊産婦さんのケアを実施してきました。

被災している妊産婦さんが対象であることから、妊娠期間や産後期間に特に制約はなく、およそ産前は２週間程度前の方が多く、出産後は、ほぼ１カ月で退所されていました。

○　どのようなサポートが行われたか

・　助産師活動

助産師さん方は、授乳ケア・沐浴・沐浴介助、健康相談等のサポートを実施しました。

サポートの目標は、滞在期間中、心身をリラックスして頂き、妊娠期間を心安らいでお過ごしいただくほか、産婦には、新生児育児に不安なく楽しんで育児に関われるよう、必要に応じて技術的アドバイスを行い、また、産後の広がった骨盤調整をはじめ、腰をアロマオイルでマッサージしたり、母乳が足りているか、ちゃんと出ているかのケアなど、全体に目をかけ、手をかけることを心掛けました。さらに、下腹痛についても、触診したり、後陣痛と悪露の状況を説明したりの専門知識・技術を生かした活動を行いました。

産後約１ヶ月間のママと赤ちゃんは、まさにおっぱいが上手に飲めるよう、ママはおっぱいに自信が持てるようになる期間でもあったように感じられます。母乳育児は母と子の共同作業ですね。助産師の存在は新米ママにとって必要不可欠な存在であることを実感した月日でもありました。

・　家事援助ボランティア活動

家事ボランティア・ママボランティアさん方は、洗濯・ミルトン交換・沐浴の準備と着替えの手伝い・物資の整理・仕分け・子どもの遊び相手・室内の清掃・買い物など色々して頂き、実家のママ的存在でもあり、お姉さんの存在であったと思います。これまでも、我が子を育ててきただけではなく、実際に娘さんのサポートも行ってきたこと

でしょう。まさに、かゆい所に手の届くケアをされていました。不自由な所は無いか、困った様子は無いかなどに目を配り、常に衛生材料など産後に必要な物品も手に取りやすいようには配したり補充したりは、甲斐甲斐しい姿でした。また、上のお子さんが居る時は、保育士の経験を生かして、追いつ抜かれつのチャンバラごっこなど、所狭しと遊ぶ笑い声は館内に響き渡りました。

ママは、嬉しそうにそんなお兄ちゃんを見守り、赤ちゃんに乳房をゆっくり含ませていました。ママたちからは、「上の子を見てもらっていたので、赤ちゃんを見ることに集中でき、リラックスできた。赤ちゃんか可愛い。世話することを楽しめている。しっかり赤ちゃんを守っていきたい。此処でゆっくり休めるのは有りがたい。こういう場所が有るのは良いよね。避難所で、子どもが泣くからと表に出ていることを見かけているので、我慢しないで、こういうところがあるので来れば良いのにね」との感想を戴いています。

・　嘱託医？

ボランティアの嘱託医として、宮内婦人科・心療内科の先生及び川嶋小児科の先生にはご協力頂きました。川嶋先生には何度も足を運んでいただき、身長・体重の増加チェックはもとより股関節の動きなど様々チェックをいただき、お一人お一人の質問にも丁寧にアドバイスをいただきました。有り難うございました。また、似内先生にも産婦さん方に健康講話を行っていただいたり、急患対応もして頂きました。館内において、こうした医療関係のバックアップが得られていたことをご報告いたします。岩手県産科医会会長の小林高先生、花巻医師会の先生方、ありがとうございました。

川嶋先生：うん、良い子だねー、
健康そのものだ！

・　各種ボランティア活動

ボランティア登録をいただいた皆様方により、絵本の読み聞かせ、クラシックコンサート、音楽療法、琴の演奏など、心あたたまる支援活動をいただきました。

クラシックコンサート
（Ｇ線上のアリアほか）

三井先生の音楽療法

・　ハプニングや、その対処について

基本的に、想定される事態に対して連絡体制を整備し、その都度想定の行動をとれるように連絡網を掲示するほか、24 時間、アネックス側の職員が常時待機の状態を維持して頂きました。また、緊急時には、救急車の手配のマニュアルが事務室内に掲示され即座の対応が可能となっておりましたし、実際に、産気づいた妊婦さんを施設側で県立病院まで搬送もして頂けました。また、高齢の入居者さんが急な発熱があった際は、アネックスのオーナーでもある医療法人中庸会の医師が診察に当たって頂き、その夜には解熱して軽快したという事例もありました。

それぞれの役割分担の中で、連携良く対処出来たことに改めて感謝いたしたいと思います。皆様ありがとうございました。

○　入所者とその状況

４月１８日から８月１３日までの間に、７組・３０名の皆様にご利用いただきました。

＜妊産婦ケア事業健考館アネックス入所者＞

	名前	入所期間	分娩・予定日	病院	入所者	休日のみ入所者	帰所先
1	Aさん	4．18～5．1	4月13日 自然分娩	中部病院	産婦・長男 新生児	夫	アパート
2	Bさん	4．23～6．10	5月9日 自然分娩	工藤医院	産婦・夫 新生児	夫の父・夫の母・長女	仮設
3	Cさん	5．5～6．20	5月19日 緊急帝王切開	中部病院	産婦・新生児 夫の母	夫	夫の実家
4	Dさん	5．13～7．23	6月30日 緊急帝王切開	中部病院	産婦・新生児	夫	内陸雇用促進
5	Eさん	5．20～5．29	8月30日 予定	大船渡病院	妊婦	夫・妊婦の父・母 夫の父・母	仮設
6	Fさん	6．24～8．8	7月3日 自然分娩	中部病院	産婦・夫 産婦の祖母		内陸アパート
7	Gさん	6．29～8．13	7月13日 予定帝王切開	中部病院	産婦・新生児	夫・長男	仮設

これが、ご家族のお住まいでした！

2　事業予算と決算

⑴　ゆかわ脳外科・子育てネット会計

①　収入の部

区　分	科　　目		予算(A)	決算(B)	比較(B-A)	摘要
総額	収入総額		508,161	516,718	8,557	
子育て	1	支援金	300,000	300,000	0	いわて子育てネットからの支援
ゆかわ	2	寄付金	208,161	208,161	0	ゆかわ脳外科からの寄付
雑入	3	利息	－	8,557	8,557	預金利息57　納めの会から繰入8,500

②　支出の部

区　分	科目		予算(A)	決算(B)	比較(B-A)	摘　　要
総　額	支出総額		508,161	372,640	△135,521	
事務管理費	1	事務管理費		32,640	32,640	当事業運営に必要な諸経費
	11	通信費手数料		225	225	郵送料・銀行手数料
	12	会議費		3,230	3,230	
	13	運賃等		29,185	29,185	タクシー・ＪＲ運賃・ガソリン等
事 業 費	2	事　業　費		340,000	340,000	当事業の直接経費
	21	活動費		340,000	340,000	事務局員活動費等

収入 516,718 と支出 372,640 の差額　144,078 円は、日本財団会計へ繰り入れる。

⑵　納めの会特別会計

①　収入の部

区　分	科目	予算(A)	決算(B)	比較(B-A)	摘要
総　額	収入総額	30,000	38,500	8,500	
	会費等	30,000	38,500	8,500	会費@1,500*19 人、お祝 10,000

②　支出の部

区　分	科目	予算(A)	決算(B)	比較(B-A)	摘　　要
総　額	支出総額	30,000	30,000	0	
	会食費	30,000	30,000	0	

収入 38,500 と支出 30,000 の差額　8,500 円は、湯川・子育て会計へ繰り入れる。

⑶　日本財団会計

①　収入の部

区　分	科　　目		予算(A)	決算(B)	比較(B-A)	摘要
総　額	収入総額		1,000,000	1,144,078	144,078	
助成金	1	日本財団助成金	1,000,000	1,000,000	0	
自己資金	2	自己資金	―	144,078	144,078	ゆかわ子育て会計から繰入

②　支出の部

区　分	科目		予算(A)	決算(B)	比較(B-A)	摘　　要
総　額	支出総額		1,000,000	978,453	△ 21,547	
事務管理費	1	事務管理費	80,000	229,501	149,501	当事業運営に必要な経費
	11	通信費	30,000	7,220	△ 22,780	郵送料
	12	消耗品費	50,000	47,816	△　2,184	紙・インク・フォルダー等
	13	使用料賃借料	0	11,970	11,970	レンタカー使用料等
	14	運賃等	0	2,495	2,495	ガソリン代・高速料金
	15	報告書作成費	0	160,000	160,000	事業報告書印刷製本費
事業費	2	事　業　費	920,000	748,952	△171,048	当事業の直接経費
	21	扶助費	300,000	86,202	△213,798	シーツ・授乳用衣服等
	22	交通費	500,000	517,000	17,000	助産師等の交通費
	23	移送費	100,000	0	△100,000	医療機関への移送費
	24	利用者支援費	0	145,750	145,750	県費に代わる支援費
	25	予備費	20,000	0	△ 20,000	

収入総額 1,144,078 円と支出総額 978,453 円の差額 165,625 円は、日本財団に返戻する。

３　花巻での事業参加者

⑴　助産師　１７名

日本助産師会岩手県支部中央区会他含む花巻市・北上市・奥州市居住の助産師。

原則、１３：００-１６：００常駐し、適宜、健康チェックし、ママと子らの健康管理を担う。

⑵　家事援助者　２７名

お産と地域医療を考える会１７名とママボラティア１０名。

１０：００-１６：００の時間帯に２交替で、保育・食事介助・入浴介助など適宜必要に応じてケアする。（ママボランティアは保健士・看護師等で、ＰＣ操作・図書案内他を担い、花巻市・北上市・滝沢村の１０名）

妊産婦さん、私たち（家事ボラ）を
実家の母と思って、甘えてねー　♪

⑶　嘱託医（ボランティア）　２名

宮内婦人科・・水曜の午後往診（ボランティア・要事前申し込み）

川嶋小児科・・木曜の午後往診（ボランティア・定期巡回）

⑷　健考館アネックス　○名

入所者の宿泊・入浴・食事の提供を担当。

＊　健考館による移送サービス（６人乗りワゴン）

事前の申し込みを原則とし、以下の４系統について無償移送する。

アネックス―来久保医院、アネックス―県立中部病院、

アネックス―宮内婦人科、アネックス―市内避難所

⑸　花巻市　○名

沿岸被災市町村支援本部担当３名と花巻市保健センター保健師○名。

入所者の決定、健考館アネックスへの県費支援窓口、入所者の健康管理等を担う。

⑹　はなネット会員　１０名

アネックスでの自然観察会（散歩・移送他）１回、及び週１回の管理活動、物資の搬入、事務処理等を担う。

４　支援物資の受入れと配布

この事業の実施に当たり、県内はもとより東京や静岡など広範囲におよぶ３５の団体や個人から、資金４件、物資４３件、合計４７件のご支援をいただきました。皆様からのあたたかいご支援があってはじめて、この事業が成立しました。

心から御礼申し上げます。また、皆様のご厚意を、間違いなく妊産婦さんとそのご家族にお伝えしたことをご報告いたします。

支援物資贈呈元(団体区分・提供物品別)

団体区分	団体・人数	提供物品（件数）							
		資　金	生活用品	衣類全般	育児用品	ﾐﾙｸ用品	子供用品	その他	計
企　　業	4		2		2	1			5
NPO 等各種団体	10	2	4	2	6		1	2	17
市民任意団体	8		1	3	5	1			10
診療機関	6	2	1		5				8
個　　人	7		2	2	2			1	7
計	35	4	10	7	20	2	1	3	47

支援物資贈呈元(団体区分・地域別)

団体区分	団体・人数	贈呈元所在地								
		花巻市	盛岡市	二戸市	仙台市	静岡県	東京都	茨城県	不明	計
企　　業	4	3				1				4
NPO 等各種団体	10	2	4				4			10
市民任意団体	8	4		1	1			1	1	8
診療機関	6	2	3				1			6
個　　人	7						1		6	7
計	35	11	7	1	1	1	6	1	7	35

５　支援元団体

この事業は、私ども３団体だけでなく、多くの団体・機関の皆様との連携・協働によって実現することができました。その中から主な方々についてご紹介し、御礼に代えさせていただきます。

⑴　医療機関

釜石地域の被災された妊産婦さんへの当事業の紹介をはじめ、診療から花巻方面への移送など、現地での窓口業務を県立釜石病院に全面的にご協力いただきました。

分娩は、県立中部病院、工藤医院、ＫＵＢＯクリニックにお願いしました。

健考館アネックス滞在中の健康管理は、花巻医師会の以下の皆様にご協力いただきました。

小児科：	川嶋医院
婦人科：	総合花巻病院
婦人科・心療内科：	宮内婦人科・心療内科クリニック
心療内科：	ちば心療内科クリニック
内科（心療内科）：	ゆうきクリニック

⑵　岩手県産婦人科医会・ＮＰＯ法人いわて子育てネット、ゆかわ脳外科

当事業の立ち上げにあたり、岩手県産婦人科医会小林会長の力強いご助力をいただき、そのご紹介で、既に盛岡で被災妊産婦ケア事業を実行しておられたＮＰＯ法人いわて子育てネットから立ち上げ資金と多くの物資のご支援をいただきました。

また、花巻市内のゆかわ脳外科の役職員や入院患者の皆様からは、集められた募金を当事業のためにとご持参いただきました。

⑶　行政機関

花巻市沿岸被災市町村支援本部の皆様には、花巻での受入れの窓口と県からの災害救助法に基づく健考館アネックスへの資金支援のお世話をいただきました。県費に加え、市独自の上乗せ支援も行われました。市保健センターの保健師の皆様にも妊産婦の健康管理に携わっていただきました。

釜石市と大槌町の保健師さんには、被災直後の厳しい状況の中で妊産婦さんへの紹介をお願いしました。

県沿岸広域振興局保健福祉環境部には、釜石市や大槌町の保健師さんや釜石病院との連携窓口を担っていただきました。

県政策地域部地域振興室（後に復興局）、保健福祉部地域福祉課と児童家庭課の皆様には、事業の立ち上げと運営にご助言をいただきました。

⑷　健考館

申し上げるまでもなく、当事業の「場」をご提供いただきました。そればかりでなく、買物や通院など市内各地への移動の無料支援、館内環境の整備、他の宿泊利用者との調整など、支配人をはじめとする役職員の皆様から心温まる最高のサービスをいただきました。

⑸　いわて結いっこ花巻支部

当事業の立ち上げ時からご協力いただき、市民等から寄せられた多くの物資を提供いただきました。

⑹　日本助産師会岩手県支部

現場で大活躍した助産師さんたちを後方から支援いただきました。

（そのほかにも多くの皆様からご協力・ご支援をいただきましたが、割愛させていただきます。）

Ⅲ　事業関係者の所感

１　助産師

・　家事ボランティアさんがいて、お洗濯や沐浴準備を手伝ってくれたので助かった。

・　場所的に交替勤務の中、出向くのが大変だなぁと思ったこともあったけど、他の職場の助産師と専門を生かして活動できたことが良かったと思った。

・　内陸にいても自分ができる被災者支援ができて良かった。

・　被災しながらも頑張っている入所者に私自身が力を分けて
もらった気がする。

・　連日ではなく隔日の活動でも良かったかもしれないが、結果的に毎日誰かが行っていたことは大きな成果だと思った。

・　何よりも入所者が、乳房や育児など小さな心配事も話してくれ、トラブルなく産後を過ごせたことが良かった。

・　家族の入所も可能だった施設で良かった。

・　出向いた午後の時間帯に皆が自然に集まり、お茶を飲みながら小さな育児サークルのような雰囲気になれたのが良かった。

・　健考館のスタッフも心よく声をかけてくださりありがたかった。妊婦健診の送り迎えなどありがたかった。

・　今回健孝館で被災者の方を受け入れると聞き、ボランティアとして最初にお邪魔させていただいた時の第一印象は、こんなに恵まれた所で産後を過ごす事ができるのはとても素晴らしい事だな…と言うものでしたが、実際は皆さん地元に帰りたいと訴えられ、現実とのギャップを感じました。

・　支援に入らせていただいた回数は少なかったのですが、初産の方よりもお子様連れの方に対する支援の難しさを感じたことと、あたしが想像する以上に被災者の方の精神的なタメージは大きいものなのだと感じました

・　被災があってから、自分にも何か出来ないかと思っていた所に、花巻の受け入れが決まりました！最初は、どのように接したらいいか、迷い考えることがありました！先輩助産師の話を聞く

機会があり、環境が変わった妊産婦さんに寄りそい、見守りするようにとのことで、心がけるようにしました！継続的にかかわれたらもっと対応、対策が具体的なものに出来、震災後に関わらず日々の生活にプラスにつながる支援が更に出来たのではないかと思いました！

・　今回、健考館での母子の支援に、微力ではありましたが、お手伝いをさせていただきました。想像をはるかに超えた、被害の大きさ。沢山の方の命が奪われ、家や職場が津波に飲まれ、心に受けた、喪失感や明日が見えない絶望感・不安。お腹に赤ちゃんを抱えた、または、赤ちゃんを産んだばかりのお母さんは、本当に不安な気持ちで溢れそうだったことでしょう。私自身、どう接していいのかと考えましたが、私は、今ここにある母子と家族に寄り添い、今後ゆっくりとでも着実に子を抱えながら前に進んでほしい、地元に戻った後の生活に結び付けてほしいという思いで、お話を聞いたり、赤ちゃんのお世話をする家族を見守りました。
　その中で、私は、お母さんが、不安な気持ちを抱えながらでも前に踏み出そうとしている姿や、コミュニティを大事に考えて生きていこうとする家族の姿に心が震えるような気持ちになりました。この出会い、一期一会は私にとっての人生の宝になると思います。

・　今回の事業は、前例が無かったため、模索しながら進められてきました。沢山の方のご協力のお蔭で母子の支援を遂行できたことに心から感謝申し上げるとともに、これから、時間がかかるかもしれないけれども復興をし、未来か切り開けることを願っております。

・　最初の頃はどのように接していいのか不安がありましたが、一人ではなく複数での対応かは学ぶことがあった。後半、家事ボラがいない時自分達の時間がうまく取れない事もあり、いてくれればいいなと思いました。

２　家事ボランティア

・　私は、沿岸の被災地の方に何かお手伝いが出来たら良いなと漠然と思っていた所に、家事ボランティアのお話をいただきました。
　深く考えず、行こうと思いました。
　初日、ちょっと緊張してましたが、先輩家事ボランティアと助産師さんとその子供さんとのやりとりを見てましたら、ほのぼのして気が楽になりました。
　普段、主婦なので生活一般の事なら出来ると思いましたが、いざ、妊婦さんにお会いし、ちょっとお話をし始めると、震災の事、避難所の事を聞き、どう言葉を返して良いか戸惑いました。
　赤ちゃんのお世話も、実は自信なくていました。自分の子どもと違い、それも生まれたて、見ているだけでいいなと思いました。でも、だっこさせてもらうと一変しました。なんてかわいいんだろう♡♡♡(母性本能でしょうか)。
　その日、帰り道はウキウキ気分でした。震災に遭われてどう言葉を、など何もかも吹っ飛びました。会って、だっこしたり、おしゃべりしたり、おいしいお菓子を食べたりが気持ちを幸せにします。
　数回のお手伝いでしたが、自分に出来る事にこだわらず、人とのふれあいは、とても大事なこ

とだと思います。

・　災害後、同じ岩手に住みながら何もできず歯がゆい思いをしておりました。そんなとき、お産と地域医療を考える会の方から家事ボランティアのお誘いがあり、参加させていただきました。
　私の担当入所の方は、家族同伴の方もあり思ったよりお手伝いがなく、果たしてお力になれたのか、申し訳ない気持ちです。
　これから復興にはまだまだ時間がかかります。私にできる範囲でのお手伝いができればと思っております。

・　友達からボランティアをしてみないかと言うメールがあり、話を聞くだけでもと参加。こうして色々と活動している団体がある事を初めて知り、感心しました。私にできるか心配でしたが、ただそこに居たというだけでしたが、楽しく居させて頂きました。
　また助産師さんの、今どきのお産事情など聞けてよかったです。この体験をさせてくれた友人と団体の皆様に感謝致します。ありがとうございました。

・　身近に起きたいまだかつてない震災に、回りの人達に起きている現状に、自分に何が出来るのかと思っていた時の、今回の被災した妊産婦さんへの支援活動（ボランティア活動）でした。
　利用して下さった方達は、私が当初想像していたよりは少ない人数でしたが、皆さんが無事に出産を終えて帰って行かれた事は本当に良かったと思います。
　一人では微々たる力ですが、ボランティアの人達が一丸となっての活動だったと思います。この活動に、私はやらせていただくと云う思いで参加しておりました。自分自身の為であったように思います。

・　今回の家事ボランティアは、まとまって家を空けられない主婦でも参加できるありがたいものでした。仕事は、洗濯や掃除、赤ちゃんや上の子のお世話、みんなとのおしゃべり等、すべて日々の延長です。でも、突然平穏な暮らしを奪われてしまった方達を前にして、なにげない毎日がどんなに大切なことであったかを改めて教えられました。
　被災後、知らない場所での出産とその後の生活は、本当に大変な事だったと思います。そんな生活を強いられた妊産婦さんにとって、またペアとなって働く家事ボランティアにとっても、助産師の存在はとても心強いものでした。
　お母さん達全員母乳が良く出て、赤ちゃんが無事に大きくなったことは、当たり前のことのように思われるかもしれませんが、助産師の専門性を生かした毎日のケアがなければ、こんなに順調にはいかなかったでしょう。一緒に働けてよかったです。
　さらに、生まれてきた赤ちゃんの存在、これに優るものはありませんでした。無条件で周囲を明るく元気にし、みんなを一つにしてくれました。
　被災された皆さんは、これからまだまだ大変な現実と向き合っていかなければならないと思いますが、これからも子ども達が大きな力になってくれるに違いありません。
　これまで沿岸には縁のなかった私ですが、今回の縁を大切に、これからも被災地を応援し続けたいと思います。笑顔で退所して行くご家族の姿を見られて、本当にうれしかったです。ありがとうございます。

３　ママボランティア

・　花巻・北上・盛岡周辺の小さなお子様を持ちながら、「何かお手伝いできれば」と名乗りを上げて下さったママ達１０数名です。小さな子ども連れで、被災地へ行って直接支援は出来ないけれど・・・・・内陸で出来ること、沢山ありました！！

物資整理：衣類のサイズ分け、アイロンかけ

物資見極め：支援物資の衣類の中には正直、古着で着れない状態のものがあり、ママボラ目線で「自分の子供には着せないだろう」という物資を選んで破棄しました。

健考館アネックスでの過ごしやすさ：小さなお子様連れで、アネックスで物資作業に来て頂き、「ここの絨毯はすべりそう」「ベランダにはスリッパ欲しい」などママ目線で、アネックスの環境を見て頂きました。危ない個所などは、施設で改善してもらい、実際の妊産婦さん受け入れをしました。

ピンポイントの物資支援：急に「ベビーカーが欲しい」「哺乳瓶消毒ケースがほしい」などと要望が出た際は、ママボラさんが現役ママとしてそのネットワークで、ピンポイントで欲しい物資を探して来てくれました。

・　震災後、自分にも何か出来ることはないかという思いがあり、育児しながらでも協力できるママボラは願ってもない機会でした。多方面に広く声かけをした結果、集まった物資類もあり、これはママボランティアならでは、広いネットワークあればこその収穫だったと振り返っています。育児しながら出来ることは限られていますが、今後も活動の機会があればお手伝いをしてみたいと思います。

・　今回大震災が起こって、子持ちの自分にもボランティアできることというのが、必要とされていると実感でき、嬉し可ったです。また、ボランティアに参加して、自分自身の身の回りの生活のことも見直すことができ、こちらが学ばせてもらったことも多かったです。

４　健考館アネックス

この度の健考館アネックスにおける被災妊産婦さん及びご家族受入事業に携わっていただいた全ての方々に心より感謝申し上げます。

震災直後に妊産婦ケアの必要性に着眼され、各方面への協力要請並びに必要物品の手配等、事業の中心となって活動された『はなネット』の皆様、今事業の最大のテーマである妊産婦・新生児ケアに心血を注いで頂いた『助産師』の皆様、ご自分の経験を踏まえられ身の周りのお世話に徹した『家事ボランティア』の皆様、本当にお疲れ様でした。

震災発生後３月１７日に内陸一時移送受け入れを申請し、その後岩手県から何も音沙汰のない中、はなネットさんから妊産婦さんに特化した受入のお話を頂き、手探りの状態で受け入れ準備を進めて参りました。

４月１８日に受け入れを開始し約４か月、７家族・約３０数名の方々がそれぞれの期間滞在され、無事出産され、元気に退所されました。

この間、受入担当者として入所者の方々の安全・安心をモットーに利便性向上につとめて参ったつもりではありますが、想像を絶する被災に遭われた皆様の心情を考えるとき、果たしてどこまで皆様の心に触れる接遇ができたのか不安がよぎるのも事実です。

それでも退所される時に見られた皆様の笑顔と感謝の言葉を頂いた時には胸が熱くなると同時に若干の達成感をも覚えました。

未曾有の大震災と言われる災害直後に、縁がありまして健考館アネックスで同じ時間を共有し、６名の新しい命が誕生し元気に巣立っていったこの４か月、私にとっては忘れることのできない貴重な時間でありました。

５年後、１０年後、成長された７名のお子様たちのお姿を、ぜひ拝見したいものです。

健考館　支配人　佐藤　一雄

健考館理事長に抱っこされて

５　入所者

＜Ａさん＞

お世話になって２週間になります。

至れり尽くせり、きめ細やかなご支援を頂きありがたく思っています。

身の回りのお世話から、通常退院してしまえば受けることのできない助産師さんからの御指導…等々。とても心強く安心して過させて頂きました。きかん坊な上の子の遊び相手までして頂いたり…本当に感謝です。

私自身、精神的に弱くなっていましたが、話を聞いてもらって、皆様の温かさに救われました。ここで皆様に支えられて過ごした時間があるからこそ、この子達のために頑張らなきゃ!!と踏ん張る気持ちになれました。わんぱくな兄ちゃんと、その影響を受けてしまうのか…?!な弟と、日々、私も負けずに育っていこうと思っています。

皆様それぞれお忙しい中、私たち被災地の妊婦のために御力を尽くして頂いていますが、どうぞ皆様もお疲れを起こしませんようご自愛ください。

いつか…元気になった釜石に虎舞をする〇〇ちゃんを見に来てください。その頃には☆☆ちゃんもはまっているかもしれないけど…（笑）ありがとうございました。

＜Ａさん退所後の手紙＞

花巻の皆さん

こんにちは。思いがけない皆さんからのメッセージ、とてもうれしく拝見しました。

特に母は今回の出産では私に淋しい思いをさせたという気持ちが強かった分、皆さんから頂いた言葉に感激していました。

釜石に戻ってすぐ、私は体調を崩してしまいましたが〇〇ちゃんは当然のことながら☆☆ちゃんもスクスク育っています。

〇〇ちゃんは花巻での生活が楽しかったらしく、「またおばちゃん達と遊びたいな～」と言っています。

私もまた釜石以外にも故郷ができたような気さえしています。

夏休みに花巻に行ってみようかと〇〇ちゃんとも

話してたので、機会を見つけて遊びに行けたらいいな・・・と思っています。暑かったり、寒かったりしています。

皆さま、お身体を大切に・・・・。

＜Ｂさん＞

ここに来て１ヵ月半、長いようで短く感じました。初めは不安でしたが毎日来てくれる助産師さんと家事ボランティアさん、心配な事はほとんど無く過ごす事ができました。５月９日に〇〇を無事出産し産後の日常生活のお手伝い、子育て指導、産後の不安な事の相談、直ぐに相談できて、なんて贅沢な所に居るんだろうと思いました。たまに来る娘の遊び相手、とても楽しかったと言っていました。避難所暮らしの両親も静かな部屋でゆっくり休むことができ、そして沢山の物資、何もかもがとてもありがたかったです。健考館のスタッフの皆さんにも大変お世話になりました。毎日の栄養ある食事のお蔭で母乳も沢山出るようになりました。

今回の震災で失った物も多かったけど、その分沢山の優しさや、ぬくもりに触れることができました。本当にありがとうございました。お身体にお気を付けてお過ごしください。

＜Ｂさん夫＞

3 月 11 日以降出産間近の嫁と７歳の娘を抱え途方にくれていました。4 月中旬にこちらの健考館アネックスさんの話を伺い不安はありましたが思い切ってお世話になる事となりました。お蔭様で無事出さんを終え釜石の仮設住宅に帰る事となりました。

スタッフの方々やボランティアさん達、支援してくださった皆様には、家族一同、心から感謝しております。本当にありがとうございました。

＜Ｃさん＞

当初、健考館に来た時は急に転院したことや、今後の
事など不安だらけでした。

そんな時、皆さまの優しい言葉や話を聞いて頂いたり、厚いケアのおかげで落ち着く事が出来ました。

出産予定日が５月１２日でしたが、１週間遅れて５月１９日に途中帝王切開になりましたが、３１４０グラムの男子を無事出産いたしました。

産後も助産師さんの指導やアドバイスを頂き、息子もすくすくと育ち、私自身も初めての子育てに力を貸して頂き、本当にありがとうございました。

皆さまに色々とご支援頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。

今後、釜石へ帰り、まずは自分たちの生活を立て直し、復興できるよう頑張りたいと思います。

＜D さん＞

5 月 14 日に入所し、2 ヶ月と 10 日という長い期間、本当にお世話になりました。初めての出産で分からない事だらけでしたが、産前・産後の助産師さんの御指導、本当に助かりました。出産予定日 7 月 2 日で普通分娩の予定が、早めの破水で、結局は、緊急帝王切開になりましたが、無事 3700g のＢｉｇで元気な男の子を出産することができました。

出産後には、貴重な育児指導だけでなく、精神面のサポートまでしてくださった助産師の方々、洗濯や部屋掃除など、身の回りのサポートをして下さった家事ボランティアの方々、栄養バランスのよい食事や、病院までの送迎、またいつも私達家族のことを気にかけて下さったアネックスの皆様。私達〇〇家一同、心から感謝しています。

今回の震災で家と仕事を失い、また 1 からのスタートになりますが、皆様からの支援と、あたたかい支えのお蔭で、前向きな気持ちで頑張ることができそうです。本当にありがとうございました。私達がここで頂いた幸せが、皆様にもおとずれますように…。いつまでもお元気でお過ごし下さい。

＜E さん＞

こんにちは。お手紙と写真頂きありがとうございました。アネックスの皆様には本当に手取り足とり親切にしてもらい感謝しています。私もお陰様で順調に赤ちゃんが育ってきました。体重も平均並みで今のところ問題ないそうです。以前アネックスでお世話になってから 2 カ月がたちました。本当に早いものです。来月の今頃月末は、もう生まれると思うと早いです。お腹もスイカのように大きくなり、しゃがんだり靴下をはいたり、風呂掃除がきつくなってきました。旦那が休みの時は、布団干しをお願いして、重いものは大変なのでやって貰っています。おなかの赤ちゃんはますますがたがた暴れるようになりとても元気です。

釜石によられる際には、是非会える日を楽しみにしています。

若菜さんもお体に気を付けて、これからもお元気でいて下さい。どうぞ皆様にもよろしくお伝えください。

＜Ｆさん＞

アネックスでは、産前からアロママッサージなど、至れり尽くせりで、産後なんて自分の身の回りのこと全てお世話いただき感謝しています。毎日、助産師さんがケアしてくれるなんて、普通では有りえなくて、とてもぜいたくな環境に居させていただきました。毎日おっぱいマッサージをして、“大丈夫”、“自信を持って”と声を掛けてくれた助産師の皆様に感謝です。

私だけでなく、赤ちゃんのお世話、祖母の話し相手など身の回りの沢山のサポートをして下さっ

た家事ボランティアの皆さんにも感謝の気持ちでいっぱいです。
　震災で沢山の物を失い、悲しみ不安でいっぱいでした。そんな中で、ちっちゃい身体にでかい幸せを背負って生まれてきてくれたRを、私は一生かけて守り抜きます！　それが皆さんに出来る恩返しになれば良いな・・・。これから家族3人、新しい生活がスタートします。一歩、一歩ゆっくりですが、前に進んでいきます。何処かで皆さんに会えるのを楽しみにしていますね！
ちょっとづつ成長するRを楽しみにして下さい。温かい気持ちと大きな愛、幸せうを戴きました。
　本当に心からありがとうございました。

＜Gさん＞

　・・今から、6か月前、誰もが予想していなかった震災が起こりました。あの日、大きな地鳴り後に、震度6強の地震が有り間もなく大津波。私は、会社でシステムの確認、社員の安否等に追われていました。そうこうするうちに2階建ての事務所に残って居た私たちは、轟音とともにやってくる津波の前に無力で、目の前で津波に呑みこまれていく人たちを只々見つめているしかありませんでした。二波・三波と津波が来て、事務所1階は浸水のため壁は壊れ、物は散乱し、、町方では煙が上がり爆発音がしていました。悲嘆しながらも瓦礫と真っ黒な泥で足元が悪い道を、非常用ライトで足元を照らしながら、少し出てきたお腹に気を配りながら、爆撃を受けたような道路だった道を歩き、津波被害の無い学校の体育館に避難しました。
　次の日、安否を心配し、大槌で避難していた旦那が山道を超え、遠野経由で2時間以上かけ車で迎えに来てくれました。会った瞬間、足の力が抜け、その場に立ち崩れそうになり、それまで保っていた緊張は一気に安堵に変わり涙が止まりませんでした。
　それからは,おなかの赤ちゃんは大丈夫だろうか、出産までに病院は復旧できるだろうか、無事出産できるだろうか、産後の衛生状態の良くない避難所で育てていかなくてはならないのだろうかと先の見えない状態を心配していました。
　しかし、この健考館で産前・産後と十分なケアとご支援を戴き、あの震災が夢であったかのような生活をさせて頂きました。感謝の言葉では伝えきれないほど、出会えた皆様には感謝いたします。
　これからは何年かかるか分かりませんが、以前の生活を取り戻せるよう、被災者ではなく、復興者として家族で協力しながら頑張りたいと思います。本当にありがとうございました。

６　事務局

⑴　助産師担当

助産師　八重樫重子

皆様、被災妊産婦支援事業ご苦労様でした。

３月１１日の大震災、何が起こったのか、恐怖と不安の中沿岸の大津波により信じられないほどの方々が被災されたことを知りました。

震災後、今までに感じたことのない恐怖感と閉塞感と無力感でどのように動きだしたらいいのかも考えられずに過ごしていました。そこに美代子さんのこの支援をしたいという声、曇り空の雲が引いていくような気もちになりどこに居ても自分の出来ることをすればいいのだと感じました。

健考館の施設が決まり、支援物資を運んだり、お部屋の準備をしたり、たくさんの方々の力が集まりました。４ヶ月間で７組の妊婦さん、ご家族が入所され無事お産を終え新たないのちを抱いて退所されました。

入所当初の硬い印象が、お産され産後のお手伝いをさせていただくうちに表情もほぐれていき元気に帰られていきましたが、皆さんの退所時の感想を読ませていただき、被災地と内陸の状況のギャップの大きさ、被災された皆さんの計り知れない不安と恐怖を知り、この支援は自分の自己満足ではないかと思った時期もありました。

でも、今振り返ってみると入所された方々や生まれてきてくれた赤ちゃんに私自身が癒され元気づけられてきたなぁと感じています。

震災後５カ月を過ぎた今も被災地での生活はまだまだ大変な事が多いようです。そのような中で産後を赤ちゃんとゆったり養生していただき、被災時の辛かった思いを吐き出し語ってリセットして帰ってもらえた事がこの健考館での支援の何よりの成果だと思います。

信じられないほどの被害や犠牲者があり、本当に辛い苦しい思いを経験した大震災でしたが、この震災でこの７組の皆さんに出会えた、これもご縁なのだと感じます。このご縁を大切にこれからも繋げていきまた何か自分が出来ることをしていきたいと思っております。

この支援にご協力くださった方々、携わって下さった方々、健考館のスタッフの方々、本当にお疲れ様でした。

日本助産師会岩手県支部中央区会

「被災された妊産婦さんとご家族を花巻で受け入れます」

はなネットが支援を始め、日本助産師会岩手県支部中央区会でも、これまで７組の妊産婦さんとご家族を支援させていただきました。

被災地で大変な思いをされている妊産婦さん。花巻に来ていただき、少しでも安心して出産や産後をすごして頂ければと思い始めました。しかし、産婦さんが、ご家族と離れて花巻で過ごしている間、離れていることへの不安が強く、支援を受ける側と支援をする側との気持ちのズレがあることに気づきました。今後このような支援を行う場合には、支援される側との気持

ちのズレがあることを認識し、本当は何を望んでいるかを考慮して支援していく必要があると思います。

中央区会として様々な施設からの助産師が集まりましたが、毎日の担当を考えて１カ月の勤務表を作成し、人員の調整をした担当者が大変な思いをしたので、どのようにすればスムーズにいくのかは今後の課題で有るかと思われます。

沐浴や授乳、育児相談などの専門支援と日常生活支援との組み方が難しく、家事ボランティアの方々ともコミュニケーションをとり、合同でカンファレンスをして共通の認識を持つことも必要であったと思っています。

先が見えない、予測がつかない支援ではありましたが、中央区会として色々な施設から来ている助産師達で、同じ産婦さん方をケアするという事ができて良かったです。今回の支援メンバーには、産婦さんが出産された病院の助産師もいて、産婦さん側も知っている顔があり、少しでも安心されたのではと思われます。逆に出産された病院のスタッフも健考館に帰ると思うと安心して見送っていたと話していました。

退所された方々にメッセージを書いた色紙を送らせていただくと、すぐに返事を頂き、つながりを感じることができました。退所され、地元に帰っていかれた後に、現実を目の前にしたときに悲しみが再び大きくなる方が多いようです。何もない妊産婦さんとはちがうと言うことを私たちも再認識しました。

今回、このような支援を一緒にさせて頂き、感謝しています。自分の時間を使ってご協力頂いた皆様に本当に感謝いたします。

７組の方が無事に地元に帰って行かれた事に感謝いたします。

助産師　佐藤美代子

今回の事業に関して「感謝」の一言です。
出会ってくれた妊産婦さんとご家族に感謝。
そして、関わって下さった関係者各位に「感謝」です。
ありがとうございました。

３月１１日、私は自宅にいました。初めて感じる地震の大きな揺れに「何か大変な事態だ」と驚きを隠せず、とにかく３歳半の息子と５カ月の娘を机の下に入れ「大丈夫」と声をかけ続けました。大きな揺れが収まり、急いで娘をおんぶし、息子を抱き車へ避難。何度も家と車を往復ししばらくは停電になっていることすら気づきませんでした。しばらくし、携帯の不通、停電にきづき、割れたガラスに注意しながら、子供とどうしたらいいか考えていました。その夜は、お湯も沸かせない家で、家族で煎餅を食べ「これで母乳はでるのだろうか」と助産師と思えぬ不安な夜を過ごしました。人生で初めての長い長い停電の２日間でした。

「きっと病院は大変だろう」とこんな有事に病院現場にいれない事に医療者のはしくれとして罪悪感を感じました。その気持ちが強くなったのはテレビがついた瞬間。津波の映像。涙が止まらず、親戚が行方不明だったので、テレビ・ラジオをつけっぱなしで過ごしました。そして、訃報が届きました。家でも大変な中でしたが、人として、同じ県内で起きている大規模な

災害。「何か出来ることはないのだろうか？」と考えていた３月１５日。岩手思春期研究会ＭＬ上で「被災母児が帰る場所がない」ということを知りました。

小林会長の呼びかけで、盛岡ではすぐに体制作りが始まり、私も何かしたいと自分の気持ちだけで「手伝いたい」と立候補しました。その時点ではガソリン入荷が全くない状態。まずは「地元花巻で仲間集め」を始める事になりました。「お産と地域医療を考える会」のメンバーへ声かけし、次に木村清且さんへ相談しました。

そこで紹介して頂いたのが、「はなネット」です。３月２３日、初めて私が会議に参加したとき、６か月の娘を抱っこし、被災妊産婦の現状、通常の被災者とは違うケアの必要性などを訴えました。私のような子連れを温かく迎えいれて下さり、皆さん真剣に話を聞いて下さいました。そして、システムの構築をその場で考えて下さり、その情報量と行動力にただ圧倒されました。

あの日から５カ月、走りっぱなしでした。はなネットの皆さまの行動力と企画力に感謝いたします。

慣れないパソコンメールのやり取り、子連れでの会議の出席。また連絡手段や会議の設定もなかなかできないまま、事業がスタートし、方々へ失礼・迷惑をかけながら私が連絡調整役をさせていただきました。ここでお詫び申し上げます。

妊産婦及び新生児の受け入れ場所に関しては、「来久保医院」の似内先生がすぐに協力して下さり、「健考館アネックス」というこれ以上ない場所を使用させていただくことになりました。特に小林高先生や村井軍一先生も協力を申し出て下さり、おかげさまで花巻医師会の先生方にも、協力していただけることになり、これほど心強い事はありませんでした。小児科の川嶋先生には何度も足をお運びいただき、診察していただきました。１カ月健診前は特にママ達の心配が多い時期です。先生に診て頂き、皆、気になる点を質問し、先生の軽快な答えで安心していました。ありがとうございました。

被災地の釜石病院の皆さまには、本当にご多忙のところ、事業内容を理解して頂き、実際の妊産婦さんにご紹介下さり、ありがたかったです。釜石病院と繋がっていることが釜石病院へ健診で通っていたママ達には安心できたようで、よく産婦人科担当医師や顔みしりの助産師の話題で盛り上がりました。ありがとうございました。

健考館の施設は温泉付きで、しかも玄米の健康食。元病院施設のために部屋の使い勝手も良いし、何よりスタッフの皆さまが素晴らしかったです。特に佐藤支配人は、どんな頼みも快くうけて下さり、私は勝手に「同志」だと思うくらいでした。本当にありがとうございました。

実際に避難所としては、何も申し分ない施設ですが、どうしても「新生児と産婦」という点で、特殊チーム「家事ボランティア」というスタッフチームを作ってもらいました。これは産後の養生のためと、精神的安定のために必要不可欠な役割だと思います。ひらたく言えば「実家のお母さん」になってもらうためのスタッフです。

被災という特殊な状況下特殊な環境下で過ごす母児にとって、その場は安心して過ごせる場所でなくてはならない。赤ちゃんの泣き声で、避難所で過ごしにくい母児の話は何度も聞きました。アネックスではそういう事が起きないように、実家のお母さん役が十分に労をねぎらって、シャワーを浴びたりする間は赤ちゃんを抱いてくれる。そんな存在です。

そのリーダーに佐藤かづ代さんが名乗りを上げて下さり、本当に助かりました。当時、私は頭での整理が追い付いていない状態でしたので、かづ代さんが様々と話をまとめて下さり、家事ボラさんへの連絡をして下さる事で私は助産師としてのケアに集中できるようになりました。妊産婦さんが入所される前から、「物資のアイロンかけ」や「洗剤は合成洗剤ではないものを用意しよう」なんて素晴らしいアイデアで、赤ちゃんを迎え入れる準備をして下さいました。そして実際に妊産婦さんが入ってからも、細々と気づいて、その役割を存分に発揮して下さいました。「主婦目線」って細やかな気配りなんだと私が関心してしまうほどでした。

年下の私と一緒に勤務に当たって頂いた皆様、ありがとうございました。本当に助かりました。皆様のおかげで事業がなりたっていました。「少しだけど」と差し入れを持って勤務に来られる方。「可愛いね、赤ちゃん抱っこさせてね」の一言で、どれだけママ達が安心して赤ちゃんと過ごせたか分かりません。本当にありがとうございました。

助産師チームは、日本助産師会岩手県支部がケアにあたりました。支部長には、事業開始当時から、何度も相談に乗って頂きました。いつも「困ったらいつでも連絡してね」の一言が頼もしく、今日までこれました。また、開業部会の佐藤ツセ子さんにも開始当時から相談に乗ってもらい、また家事ボランティア説明会の講師をして下さったりし、私には出来ない話術の巧みさ、ママ達へのケアなど後輩たちが勉強になる後姿をみせて頂きました。八重樫重子さんにはリーダーをしてもらい、煩雑な事務や勤務調整をして頂き、本当によく通って下さり、ママ達の信頼おける助産師として中心にいて頂きました。

そして、今回特筆すべきは、助産師達が各自異なる病院に勤めながら、同じママ達のケアにあたるという特殊な事業だったのですが、普段から中央区会で活動しているおかげか、皆で統一されたケアが行え、素晴らしいと感じました。藤原区会長がよくまとめて下さり、中部病院・北上済生会病院・斉藤産婦人科・工藤医院の助産師達が毎日ケアに当たってくれました。各自の得意分野で、アロマテラピー・骨盤ケア・母乳ケアなど、のケアの他、何気ない見守り、上の子の遊び相手、衣類の整理などもしながら、継続した関わりが行えました。

専門職の助産師が毎日ケアにあたる必要性があったのか？今でも答えは出ませんが、それでも継続し通うことによって、「助産師さん来たから、今日は腰痛いし、お風呂お願いします」「今日はあんただったの。待ってたよ。あの話の続きしましょう」「昨夜から、赤ちゃんの顔にぷつぷつ出てきちゃった～」など、行くのを待ってくれている言葉を聞くと、良かったのかな？と感じます。本当に最後まで、ありがとうございました。

実際の産婦さんが入所したのは４月１８日。それから４カ月で７家族が健考館アネックスで過ごしました。入所した日に「地震が来ても、ここは津波の心配はないですものね」の一言に、沿岸では常に緊張状態だったことが窺い知れ、かける言葉が見つかりませんでした。また、どの家庭もそうでしたが、「家族分離」と「精神状態」が密接につながっている事を実感すること

が多々ありました。あの大津波の日、それぞれがすさまじい状況を乗り越え、命が助かり、家族の安否が確認できるまでの不安な状態。産後の養生が必要だと分かりながらも「いつまた津波で家族と連絡取れるかわからないから帰りたい」とママが泣く姿をみて、まだライフラインの通っていない被災地へ帰った方がいいのか、もう少し養生した方がいいとアドバイスするのか、本当に悩みました。

私たちが出来るのは、アドバイスだけです。家族で話し合い、退所日が決まります。逆に家族、特に夫と一緒に過ごしている産婦は精神的に安定しているな、と感じる場面もありました。家族との距離が特に精神的不安定になりやすい産前産後の女性の支えになることを実感しました。

実際の被災地と内陸での違いを感じることもよくありました。３９週で入所した妊婦さん。今日陣痛が起きてもおかしくない状態で入所したにも関わらず、入所３日目「昨夜はお産ってどんなんだろうと考えて夜寝られなかったんです。昨日妊婦雑誌読んだからかな～」と話す姿。きっと沿岸では、目の前のがれきや事務手続きに追われ、自分が妊婦であることを意識できなかったんだろうなと感じました。また、分娩開始前に、このように自分のお産や赤ちゃんの事を考える時間を設けられて良かった、とも感じました。長く、妊婦時代をアネックスで過ごした妊婦さん。中々、日中に会えずにおり、食事内容やライフスタイルの見直しができるチャンスを作るのが難しいと感じていましたが、妊婦健診先で助産師チームの助産師がゆっくり話せる事が出来たようです。あくまで、アネックスは生活の場なので、入院している妊婦さんとは違い、適切な時期に適切なアドバイスが出来るようにしました。

また、一緒に入所した家族との関係も大事にしており、特に私は自分の子供を連れていくことがありました。子連れでケアに行くのは、違反かな？と感じながらも家庭の事業もありましたが、上のお子さんがいる産婦さんは、十分に身体を使って遊んであげられない事を気にしますし、体力を持て余している上の子には、子供が良い相手になるかな？と考えました。実際にうるさいくらいに、子供達同士で走り回り、一緒にお風呂場で水遊びをしたり体力消耗には一役買ってくれました。遊びの中には、沿岸の子供たちの「虎舞演武」には私たちも関心しきりでした。故郷の伝統芸能は子供達には「格好良い」ものであり、張り切って踊ってくれました。いつか、沿岸で彼たちが演武している姿を見に行くのが、楽しみになりました。

家族の中には、祖母世代の方もいました。津波の様子、避難所での様子、淡々と話してくれる姿、その内容に私たちは聞き入りました。そして、私の子供の子守りを買って出て下さったり、おやつを分けていただいたり、一緒に健考館の温泉につかったり、決して「支援者→被災者」ではなく、同じ「岩手の女性」として時を過ごせた事に感謝いたします。至らない点も多かったと思いますが、全家族が「ありがとう」と感謝の言葉を言って下さり、こちらの頭が下がります。被災という現実を受けながら、他人に対して感謝の言葉を述べるその優しさが嬉しかったです。最後の入所となったＧさんの感想文は、言葉を失いました。どんなにしんどい思いで過ごしたのだろう・・・と同じ世代の私は彼女の苦しみが本当に共有できていなかったんだと思いました。しかし、最後にあの感想文を残して行ってくれた事が私達へ大事なメッセージをくれたことです。

この７家族のおかげで沢山の事を知り、経験をさせてもらいました。本当にありがとうございました。

これからも現地では、被災支援が多く行われると思います。この事業を通して、沢山の方と出会い、学びを得ました。ご迷惑をおかけしましたが、今後も自分に出来ることをもう一度自分の足元を見てから、考えたいと思います。本当にありがとうございました。

出会ってくれてありがとう。「笑門来福」

⑵　家事ボランティア担当

佐藤かづ代

「此処に来るまで毎日菓子パンとお結びしかたべられなかった」。震災から１ヶ月余に入所された妊婦さんのことばに絶句しました。孤立した避難所・被災地に支援が行き届かず飲み水や食べ物に困窮していることは報じられてはおりましたが、この日本でこんなにも支援が遅れるなど誰が想像したでしょうか。今回の災害支援の困難さ・遅れをまざまざと感じた瞬間でした。生まれてくる赤ちゃんの健康をどんなにか不安に思ったことでしょうか。幸い出産までの期間のアネックスの健康食は母子の健康を支援できたかと思います。

此処での支援は妊産婦ケアばかりではなく夫に対してもあり、助産師や家事ボラさんからも丁寧な（やかましい？）助言は、両親そろっての育児ができるよう期待されてのことでした。助産師さんの指導の下、男性の大きな手で赤ちゃんの沐浴を見るのはほんとうに頼もしくやさしさが伝わってきました。妊産婦さん同士がゆったりとお話できるのは妊産婦ケアに特化したアネックスならではの光景ではなかったかと思っています。

普段ならおそらく受けられなかったと思われる、助産師さんによる妊産婦さんに寄り添ったケアができたのは今回の被災妊産婦支援事業の特徴ではなかったかと思っています。

家事ボランティアの方々は自分や娘のお産を振りかえることで、少しでも被災妊産婦さんのリスクを取り除けたらとの思いで妊産婦さんに寄り添っていたと思います。妊婦さんの安全、赤ちゃんの清潔、産婦さんの休息や、入居中の日々のメリハリで気持ちが固まらないよう心を動かしていたのではないかと思います。

家事ボランティアは支援物資の搬入や仕分け、整理、洗濯・アイロン掛け、哺乳瓶の消毒等、妊産婦さんや赤ちゃんの生活が少しでも気持ちよく過ごせ、退所後は元気に不安なく育児に専念できるようにと願っていました。

ある日、産婦さん同士が授乳しながらぽつりと言われました。「此処を出たらどうしようか」と。被災したことで背負った様々な不安が退所を目前にして大きく蘇っていたようでした。今後は

退所後の居住地でも継続した子育て支援がおこなわれることが必要です。

災害時の支援について、震災直後に妊産婦支援は事前に視野に入っておりませんでした（褥婦対応の一部の自治体･地域を除けば)。どの地域・自治体であろうと妊産婦支援はかならず視野にはいるべきと思います。そのためには直ぐ動きが取れるように、普段から助産師さんの活動をもっと地域社会のなかで生かしていることが必要かと思います。普段やっていないことが災害時に急にはできないのです。

今回、一般の福祉避難所と違い妊産婦とその家族支援に特化した活動ができたのは民間の資金提供があり、健考館アネックスが引き受けてくださり、市民団体が事務局を担って頂いたゆえできたことです。家事ボランティアに参加させていただいたことに感謝いたします。

⑶　事務担当

事務局長　若菜　多摩英

きっかけ

東日本大震災で多くの命が失われました。TV では、がれきが散乱した荒廃した街が何度も映し出されました。そんな時、助産師の佐藤美代子さんから、花巻市民活動ネットワーク協議会の会合に来て、「被災地の妊産婦に手を差し伸べたい」と訴えられました。私は、家を失い・大事な家族を失うといった悲惨な状況の中で、新たな命を育む女性たちの心情に思いを馳せると、「そうだ！この彼女の話に応えて行こう」と強く共感しました。当日の会のメンバーも思いは同じで、即座に花巻市民活動ネットワーク協議会では事業化の決定が行われました。

そこから、県や関係市町・医師会等との交渉を重ね、事務フローを確定させました。事業開始に当たっては、助産師らの日頃の人脈で、お産と地域医療を考える会などの支援が得られ、ワッとボランティアが集ったのです。

事業の費用は、幸いにして、　日本財団 100 万円、子育てネット 30 万円、矢島助産院約 10 万円（佐藤助産師さんの活動への支援）、ゆかわ脳外科約 21 万円を資金に、また、入所者の宿泊費用は県の事業として直接避難所に給付されて、こうした各種団体及び行政の総合力で事業は運営されきました。

活動をはじめて感じたこと

妊産婦ケア事業は、実質被災から 1 カ月経過後のスタートであり、既に、より安全なところにと妊産婦は全国に散っているのか、結果として、7 組の妊産婦ご家族計 30 人が利用されたに過ぎません。予測を下回る実績である。既に、頼るべきところを見出し全国に散ってしまっていたとも思われます。安定した環境の中に妊産婦が居るのであればそれで良しなのですが、流された家族が見つけられず沿岸から離れられない家族も多いことが分かりました。

また、今回の事業の中で、女性たちが他者を優先し自分を抑えていることに気付きました。助産師リーダーの美代子さんも言ってましたが、妊婦さんは、アネックスに来て初めて自分の妊娠とお産に向き合えて、今、怖いとか不安が募っているとのことです。非常時には女性の感

情が抑圧されがちなのでしょう。彼女たちは、明日の生活がどうなるか分からないなかで、自分の妊娠や生まれ来る子の話題は出しにくい、そうした被災地の女性像が見えてきました。

姑に気兼ねしてアネックスに行きたいと主張できない女性の存在もありました。

男性に守られる女性像、非常時にはその守りが破られるというジェンダーの中で生きていることが、今回感じられたことでもあります。

今後の抱負

私は、個人主義で、孤立化していた日本人に、あの押し寄せる黒い津波が多くの家屋を押し流し、多くの命を奪い、後は、がれきと言う惨憺たる風景を広がせたのを、全くバーチャルではなく、これが現実にあったこととしての衝撃を与えたのではないかと思います。物や金は如何に儚く、命と人の絆が如何に価値あるものであったかを再認識させられました。不幸は不幸だけを生むのではないようです。私たちで出来ることは何かと多くの人が動いています。

震災は、私たちに物心両面に傷跡を残しましたが、人は人なくしては生きにくいことも知らせてくれ、絆の結び直しが出来てきつつあるように感じます。私自身、この事業を通して、心豊かな人たちが身近に沢山いた事に改めて気付きました。人間て、なんて豊かで素晴らしい存在でしたでしょうか。

被災妊産婦ケアの事務局長として関わって５か月。彼女らが、入所されるまで、自分の身体のことやおなかの赤ちゃんのことを話題にしたくても、それどころでない環境の中で、自分を抑えているのを知りました。本来であれば、これから生まれる赤ちゃんのことが話題となり、楽しい会話が弾むであろう時期を、女性の一生でそうそうない機会を忍耐で迎えていられることは痛ましいと思いました。また、幼児も同じです。親たちの状況を見て良い子になっていました。お母さんの傍でおとなしかった子が、周りの環境に慣れ始め、しばらくして大きな声を出し駆け回る本来の子供の姿へと変身していくのを見ることが出来ました。

被災と言う非常時の体験は、人の心身に大きな影響を与えていたのでしょうね。

現在、仮設住宅・雇用促進住宅・民間アパートなどと、それぞれが新しい生活のステップに踏み出しています。被災地などに戻られたこうした方々やこれから妊娠・出産を迎えられる方々の、支援の必要性がこれからのニーズであると強く感じています。

Ⅳ　関係資料

日本財団 ROAD プロジェクト
「東北地方太平洋沖地震　災害にかかる支援活動助成」申請書

申請日：　２０１１　年　４　月　８　日

1.　申請者お名前は順不同です。(敬称略)

団体名（法人格を含む）		花巻市民活動ネットワーク協議会（はなネット）		
団体名ふりがな		ハナマキシミンカツドウネットワークキョウギカイ		
住　　所		〒025-0305 花巻市台２－５６－１		
代 表 者 名		中台　照幸	ふりがな	なかだい　てるゆき
担 当 者 名		若菜　多摩英	ふりがな	わかな　たまえ
担 当 者 連 絡 先	電　話	０８０－１２１８－７８８１		
	E-mail	wakarecall@yahoo.co.jp		
これまでの主な活動内容		本年２月２３日に設立したばかりで、初の活動になります。今年度はいわて花巻空港の旧ターミナルビルを活用した市民交流事業に取り組む計画です。		

2.　事業計画

事 業 内 容		日程：平成２３年４月５日～平成２４年３月３１日 場所：①花巻市石鳥谷健康増進施設「健考館アネックス」 ②花巻温泉・志戸平温泉・大沢温泉 対象：釜石市・大槌町・福島県相馬市から花巻市への避難者 内容： ①　被災妊産婦等の受入れ事業 ～　あかちゃんに　心の花束　おくります　～ 釜石市・大槌町の自宅での生活が困難な妊産婦、新生児及びその家族について、関係機関が協働してその生活を支援する。（別紙チラシ参照） ②　一般避難者への生活支援事業 約６００人の避難者の生活上のニーズを調査し支援する。
活動先協力者（活動の対象となる避難施設の責任者等の連絡先）	所　属	①医療法人中庸会　健康増進施設　健考館
	氏　名	支配人　　佐藤　一雄
	電　話	０１９８－４６－１２１２
	他の連絡	FAX：０１９８－４６－１２１１
	所　属	②花巻市旅館ホテル生活衛生同業組合
	氏　名	事務局　　山影　儀夫
	電　話	０１９８－３７－２１４０
	他の連絡	FAX：０１９８－２７－４４４５

3.　予算

申請額は 100 万円を上限とします。交通費や消耗品費などの明細を記載してください。

助成金申請額			1,000,000　円
事業費の内訳 ※明細を記載	通信費	電話・郵送費	30,000
	消耗品費	紙・インク・スタッフゼッケン等	50,000
	扶助費	ミルク・おむつ・ベビー肌着等	300,000
	謝金	助産師・保育士・整体師の交通費等	500,000
	移送費	病院～施設間タクシー等	100,000
	予備費		20,000

4.　報告

活動の終了後、速やかに助成金の使途を含む活動報告書の提出をしていただきます。

同意する　　同意しない　　（○で囲んでください）

活動内容を広く公開するために、活動期間中に電話、メール等で活動状況をお聞きするか、もしくはブログ、ツイッター等での情報発信をしていただきます。

同意する　　同意しない　　（○で囲んでください）

5.　振込口座

6.　その他

備　　考 ※何か補足事項があればご記入ください。	

代表者の記名　　中台　照幸

２０１１．６．９

ボランティア登録の代表者様

花巻市民活動ネットワーク協議会
妊産婦ケア事業　事務局長　若菜多摩英

４・5 月分、活動報告及び支払口座について（依頼）

東日本大震災は未曽有の被害をもたらしました。多くの家が、家族が流される等、甚大な被害と私たちの心に癒えない痛みをもたらしました。しかし、あれから早や、3 月ほどとなります。当初沿岸部に居られた被災者の方も内陸に移動されたり、あるいは、仮設住宅に当たり、新たに生活再建に取り組まれる方々も生まれてきております。

さて、皆さま方には、市内避難所ボランティアにご登録頂きまして、ありがとうございます。それぞれのグループで、活動を展開されていられるかと思います。きっかけが掴めなくてまだと言うグループがございましたら、遠慮なく宿の支配人さんがたに連絡を取られまして、活動願えればと思います。

尚、花巻市民活動ネットワーク協議会では、活動された方々には交通費弁償として、誠に些少ですが 1 回に付き 1000 円（ガソリン代程度）をお渡ししたく思います。支払い対象は、活動報告いただいた個人に行わせていただきます。活動したけれど、報告がまだと言うグループ等につきましては、添付の活動報告書にて記載の上、担当の私まで FAX をよろしくお願い申し上げます。また、私に届きました報告書は、市の方にもお届けいたします。

交通費対象は登録依頼させて頂いた市内避難所に限らせて頂きますことを、予め御承知下さいませ。

＊被災地での活動は、280 円の保険料とは別体系の天災タイプの 490 円となります。ついては、社会福祉協議会にて改めて加入手続きが必要となりますので、印鑑をご持参下さい（団体で届け出る場合は、印鑑不要）。

担当　若菜　多摩英
Tel/FAX:0198-26-2187
Mail:wakarecall@yahoo.co.jp

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿切り取り線＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

東日本大震災被災者支援

避難所ボランティアを募集します。

～あなたの特技・資格を生かして下さい　～

はなネットでは、会員・その構成員の皆様と、皆様がその活動状況をよくご存知の方々を対象に、ボランティア・スタッフを募集しています。花巻市の避難所（健康館アネックス・花巻温泉・大沢温泉・渡り温泉・台温泉・山の神温泉等）にお越しになられる被災者の皆様が、少しでも安心して気持ち良くお過ごしになられるよう支援しませんか。

“子育て相談をしたことがある”、“離乳食やお料理・お菓子を作るのが好きだ”、“ヘルパーの資格がある”、“元教員で子供に勉強が教えられる”、“楽器が弾ける”、“看護師や保健師の資格がある”、“子どもと遊ぶのが好きだ”、“傾聴ボランティアをしている”など・・・

手伝っていただける方は、以下にご記入いただき、会員に申し出てください。

恐縮ですが、会員の皆様はとりまとめのうえ、事務局次長若菜までファックスでお知らせください。（　FAX　0198-26-2187　）

＜花巻市民活動ネットワーク協議会＞　　代表　中台照幸

避難所ボランティア登録申出書

１．申請者氏名（ふりがな）　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

２．年齢・性別　＿＿＿＿＿歳　＿＿＿＿＿女　・　男

３．申請者所属団体　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

４．申請者住所　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

５．連絡先　本人携帯　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

電話番号　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

６．お手伝いできること（特技・資格などもお書き添え下さい。）

７．ボランティア活動保険　　別途加入済み　or　今回申し込み（280 円）

（どちらかに○印を。往復時の事故等、万が一のため保険加入を必須要件とします。）

育児支援チェックリスト

あなたへ適切な援助を行うために、あなたのお気持ちや育児の状況について以下の質問にお答えください。
あなたにあてはまるお答えのほうに、〇をしてください。

１　今回の妊娠中に、おなかの中の赤ちゃんやあなたの体について、または、お産のときに医師から何か問題があると言われていますか？

はい　　いいえ

２　これまでに流産や死産、出産後１年間にお子さんを亡くされたことがありますか？

はい　　いいえ

３　今までに心理的な、あるいは精神的な問題で、カウンセラーや精神科医師、または心療内科医師などに相談したことがありますか？

はい　　いいえ

４　困ったときに相談する人についてお尋ねします。

①　夫には何でも打ち明けることができますか？

はい　　いいえ　　夫がいない

②　お母さんには何でも打ち明けることができますか？

はい　　いいえ　　実母がいない

③　夫やお母さんの他にも相談できる人がいますか？

はい　　いいえ

５　生活が苦しかったり、経済的な不安がありますか？

はい　　いいえ

６　子育てをしていく上で、今のお住まいや環境に満足していますか？

はい　　いいえ

７　今回の妊娠中に、家族や親しい方が亡くなったり、あなたや家族や親しい方が重い病気になったり事故にあったことがありましたか？

はい　　いいえ

８　赤ちゃんが、なぜむずかったり、泣いたりしているのかがわからないことがありますか？

はい　　いいえ

９　赤ちゃんを叩きたくなることがありますか？

はい　　いいえ

ご記入日　平成　　年　　月　　日　　ご出産日：　平成　　年　　月　　日
お名前　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
ご連絡先　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（九州大学病院児童精神医学研究室－福岡市保健所使用版）

エジンバラ産後うつ病質問票（EPDS）

産後の気分についておたずねします。　あなたも赤ちゃんもお元気ですか。　最近のあなたの気分をチェックしてみましょう。
今日だけでなく、過去 7 日間にあなたが感じたことに最も近い答えに○をつけてください。　必ず 10 項目全部に答えてください。

1. 笑うことができたし、物事のおもしろい面もわかった。
   ( ) いつもと同様にできた。
   ( ) あまりできなかった。
   ( ) 明らかにできなかった。
   ( ) 全くできなかった。
2. 物事を楽しみにして待った。
   ( ) いつもと同様にできた。
   ( ) あまりできなかった。
   ( ) 明らかにできなかった。
   ( ) 全くできなかった。
3. 物事がうまくいかない時、自分を不必要に責めた。
   ( ) はい、たいていそうだった。
   ( ) はい、時々そうだった。
   ( ) いいえ、あまり度々ではなかった。
   ( ) いいえ、全くなかった。
4. はっきりした理由もないのに不安になったり、心配したりした。
   ( ) いいえ、そうではなかった。
   ( ) ほとんどそうではなかった。
   ( ) はい、時々あった。
   ( ) はい、しょっちゅうあった。
5. はっきりした理由もないのに恐怖に襲われた。
   ( ) はい、しょっちゅうあった。
   ( ) はい、時々あった。
   ( ) いいえ、めったになかった。
   ( ) いいえ、全くなかった。
6. することがたくさんあって大変だった。
   ( ) はい、たいてい対処できなかった。
   ( ) はい、いつものようにはうまく対処できなかった。
   ( ) いいえ、たいていうまく対処した。
   ( ) いいえ、普段通りに対処した。
7. 不幸せな気分なので、眠りにくかった。
   ( ) はい、ほとんどいつもそうだった。
   ( ) はい、時々そうだった。
   ( ) いいえ、あまり度々ではなかった。
   ( ) いいえ、全くなかった。
8. 悲しくなったり、惨めになったりした。
   ( ) はい、たいていそうだった。
   ( ) はい、かなりしばしばそうだった。
   ( ) いいえ、あまり度々ではなかった。
   ( ) いいえ、全くそうではなかった。
9. 不幸せな気分だったので、泣いていた。
   ( ) はい、たいていそうだった。
   ( ) はい、かなりしばしばそうだった。
   ( ) ほんの時々あった。
   ( ) いいえ、全くそうではなかった。
10. 自分自身を傷つけるという考えが浮かんできた。
   ( ) はい、かなりしばしばそうだった。
   ( ) 時々そうだった。
   ( ) めったになかった。
   ( ) 全くなかった。

ご記入日　平成　　年　　月　　日
ご出産日　平成　　年　　月　　日

お名前 _____

ご連絡先 _____

（岡野ら（1996）による日本語版）

赤ちゃんへの気持ち質問票

あなたの赤ちゃんについてどのように感じていますか？
下にあげているそれぞれについて、いまのあなたの気持ちにいちばん近いと感じられる表現に〇をつけてください。

	ほとんどいつも強くそう感じる。	たまに強くそう感じる。	たまに少しそう感じる。	全然そう感じない。
1）赤ちゃんをいとしいと感じる。	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
2）赤ちゃんのためにしないといけないことがあるのに、おろおろしてどうしていいかわからない時がある。	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
3）赤ちゃんのことが腹立たしくいやになる。	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
4）赤ちゃんに対して何も特別な気持ちがわかない。	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
5）赤ちゃんに対して怒りがこみあげる。	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
6）赤ちゃんの世話を楽しみながらしている。	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
7）こんな子でなかったらなぁと思う。	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
8）赤ちゃんを守ってあげたいと感じる。	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
9）この子がいなかったらなぁと思う。	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
10）赤ちゃんをとても身近に感じる。	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）

ご記入日　平成　　年　　月　　日
ご出産日　平成　　年　　月　　日
お名前　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
赤ちゃんのお名前　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
ご連絡先　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（吉田ら（2003）による日本語版）

家事援助日報

No_____

月日	援助内容	申し送り事項
/	AM PM	AM PM
/	AM PM	AM PM
/	AM PM	AM PM

勤務日誌

月　　日　（　　）			
はなネット		家事ボランティア	
助産師		その他ボランティア	
本日の入所（外泊）		本日の退所（帰所）	
本日の出来事			

支援金・物資等贈呈者リスト

贈呈者	住所	提供物品等
(有)シナリーアンディ	花巻市	生活用品
(有)北極しろくま堂	静岡県	育児用品
ＮＰＯお産サポートジャパン	東京都	生活用品・育児用品・衣類全般
ＮＰＯ法人いわて子育てネット	盛岡市	義援金 30 万円・育児用品全般
アイクレオ	仙台市	ミルク用品
カシオペア女性と若者を支援する会	二戸市	生活用品・衣類全般・育児用品
こども劇場		育児用品
こぶし苑	花巻市	子供用品
ジョイセフ	東京都	衣類全般・育児用品
ハーティネットとうわ	花巻市	育児用品
ママボランティア有志	花巻市近郊	育児用品
モーハウス	茨城県	衣類
いわて結いっこ花巻支部	花巻市	衣類全般・育児用品全般
花巻市役所	花巻市	生活用品・育児用品
岩手医大付属病院産婦人科	盛岡市	育児用品
岩手県産婦人科医会	盛岡市	育児用品
岩手女子高バレー部	盛岡市	育児用品・生活用品
健考館	花巻市	生活用品・育児用品
工藤医院	花巻市	育児用品
小林産婦人科	盛岡市	育児用品
太陽の子保育園保護者	花巻市	生活用品・育児用品
ゆかわ脳外科・スタッフ・患者様	花巻市	義援金　208,161 円院内で募金活動
日本助産師会岩手県支部	盛岡市	育児用品
明治	花巻市	ミルク用品
矢島助産院	東京都	生活用品・支援金 72,347 円
大久保澄江・鈴木睦		育児用品
古川・佐藤		生活用品
坂井康子・千田貞美		衣類
林　美智世	東京都	**真珠母貝の手作りネックレス 10 本**
足立区女性団体連合会：会長・副会長以下、会員から	東京都	**大判絵手紙・創作絵はがき50 枚・育児用品・激励のお手紙ほか**
愛の輪福祉会　岸本美恵子	東京都	**手紙**

＊皆様、心より感謝申し上げます。有難うございました。お名前は順不同です。（敬称略）

被災妊産婦ケア事業日誌

3 月	
3 月 11 日	東日本大震災発生
3 月 15 日	岩手思春期研究会ML上にて被災者支援の提起
	はなネット会員から被災者支援の提起
3 月 17 日	健考館が被災者受入れ施設に応募
3 月 18 日	花巻市が沿岸被災市町村支援本部設置
	いわて結いっこ花巻支部と協議
3 月 20 日	花巻市にボランティア参加申し込み
3 月 23 日	はなネット会議へ佐藤助産師参加・問題提起
3 月 24 日	花巻市こども課、来久保医院等訪問、被災妊産婦受入れ要請
	花巻温泉(岩手県旅館ホテル生活衛生同業組合会長兼事務局)
3 月 25 日	事業計画・支援体制・受入れ手順案(初版)作成
3 月 28 日	県立釜石病院・中部病院、花巻市こども課に協力要請
3 月 29 日	中部病院・花巻市医師会(小瀬川医院)・市支援本部訪問
3 月 30 日	県産婦人科医会(小林産婦人科)訪問
	県沿岸広域振興局・釜石市・大槌町に連携要請
4 月	
4 月 1 日	来久保医院・花巻保健センター・太陽の子保育園訪問
4 月 4 日	花巻市支援本部訪問・健考館アネックス見学
4 月 5 日	協働体制構築
4 月 7 日	アネックス妊産婦受け入れ準備・はなネット会議で事業開始決定
	いわて子育てネットから寄付
4 月 8 日	アネックス妊産婦受け入れ準備
4 月 12 日	助産師会会議・お産と地域医療を考える会会議・はなネット会議
4 月 13 日	アネックス妊産婦受け入れ準備
4 月 14 日	はなネット会議
4 月 15 日	釜石病院・釜石市役所・沿岸振興局訪問、花巻市役所訪問
4 月 16 日	アネックス妊産婦受け入れ準備
4 月 17 日	アネックス妊産婦受け入れ準備
4 月 18 日	A家族入所
4 月 20 日	はなネット第1回定例会、事業状況報告
4 月 21 日	家事ボランティア説明会・小児科川嶋医師診察ボランティア
	中部病院、花巻市社会福祉協議会、来久保医院訪問
4 月 22 日	KUBO 産婦人科、岩手日日花巻市局、岩手日報花巻市局、工藤医院、小瀬川医院(花巻市医師会総務委員長)訪問
4 月 23 日	B家族入所、日本財団から助成決定
4 月 25 日	岩手日報取材
4 月 27 日	IBCラジオ「ワイド」で紹介
4 月 30 日	花巻温泉ホテル花巻、広美亭、台温泉松田旅館、渡り温泉、幸迎館、大沢温泉自炊部訪問
5 月	
5 月 1 日	A家族退所
5 月 2 日	IBCラジオ「すっぴん土曜日」で紹介
5 月 5 日	C家族入所
5 月 9 日	Bさん男児自然分娩(工藤医院)
5 月 10 日	はなネット会議
5 月 11 日	河北新聞取材、シナリー化粧品営業所長激励訪問
5 月 13 日	D家族入所・Bさん産院退院
5 月 15 日	市内温泉避難妊産婦見学＆物資提供
5 月 16 日	FM花巻取材・臨床心理士見学
5 月 18 日	ゆかわ脳外科から寄付
5 月 19 日	Cさん男児緊急帝王切開分娩、来久保医院訪問
5 月 20 日	E家族入所・カネボウ化粧品ボランティア(ママボランティア)
5 月 20 日	矢島助産院矢島夫妻激励訪問

5 月 22 日	宇佐元恭一チャリティコンサート
5 月 27 日	Cさん産院退院・岩手日日取材・絵本読み聞かせボランティア
5 月 29 日	矢島産院矢島夫妻見学・はなネット会議
5 月 30 日	E家族退所
6 月	
6 月 2 日	小児科川嶋医師診察ボランティア
6 月 9 日	はなネット会議
6 月 10 日	B家族退所
6 月 12 日	復興支援クラシックコンサート・チェロ演奏（菊地優子・山崎篤・太田久子）、ソプラノ（吉田なつき）
6 月 13 日	来久保医院訪問
6 月 16 日	小児科川嶋医師診察ボランティア
6 月 17 日	来久保医院訪問、はなネット会議
6 月 20 日	C家族退所
6 月 22 日	東京都助産師会見学・はなネットと会議
6 月 24 日	F家族入所
6 月 27 日	日本フィランソロピー協会・王子ネピア来訪、見学・会議
6 月 29 日	G家族入所・Dさん分娩開始産院入院
6 月 30 日	Dさん男児緊急帝王切開分娩、来久保医院訪問
7 月	
7 月 3 日	Fさん男児自然分娩・三井先生音楽ボランティア
7 月 5 日	岩手県立大学学生看護学実習
7 月 7 日	Dさん産院退院
7 月 10 日	三井先生音楽ボランティア
7 月 11 日	花ネット登録ボランティア、宮城琴の会がアネックスにて尺八交えて琴演奏会
7 月 13 日	Gさん男児予定帝王切開分娩
7 月 14 日	小児科川嶋医師診察ボランティア
7 月 19 日	Gさん産院退院
7 月 23 日	D家族退所・アネックス→健考館移動
7 月 26 日	イトオテルミーボランティア
7 月 31 日	A家族遊びに来館
8 月	
8 月 4 日	小児科川嶋医師診察ボランティア
8 月 8 日	F家族退所
8 月 13 日	G家族退所・受け入れ終了
8 月 28 日	妊産婦ケア事業納め会

＊花ネット登録ボランティア、総数 71 人（助産師・家事ボランティア・ママボランティア等 45 人含む）

「新しい命」長期的支援

花巻市内の施設 被災の妊産婦受け入れ

東日本大震災で被災した妊産婦が安心して過ごせる環境を提供しようと、花巻市内の施設が妊産婦を家族ごと受け入れる取り組みを進めている。「新しい命」を大切に育むため、市内外の医療機関や市民団体が連携。仮設住宅への入居など地元に戻る環境が整うまで長期的に支援する。

震災による大津波で釜石市や大槌町などで被災し、現地で生活できなくなった妊産婦と新生児、祖父母を含む被災家族が対象。県の経費負担により、花巻市石鳥谷町松林寺の健考館アネックスで受け入れている。

市民ニーズに即したまちづくりを協働で進めるため2月に設立した花巻市民活動ネットワーク協議会（はなネット＝中台照幸代表）と、日本助産師会県支部、お産と地域医療を考える会などを中心にボランティア約40人が活動に携わる。

主に県立釜石、中部、大船渡の各病院と健考館・来久保医院、県産婦人科医会、花巻市医師会、いわて結いっこ花巻支部などが協力。宿泊、食事、入浴のほか、育児相談や保健指導、施設と病院間の移動も無料で行う。

施設は15室あり、26人の収容が可能。24日現在で中部病院で今月中旬に出産した母親と新生児の家族4人、さらに出産を控えた妊婦と夫、その両親の家族4人の計2組が利用している。

母子のみの受け入れは県内でもあるが、家族ごとは珍しい。若菜多摩英はなネット事務局次長は「一生に何度かしかない出産経験はただでさえ不安。震災でたくさんの命が奪われた中、新しい命を守るため妊産婦が安心して過ごせる環境が大切」と話す。

妊産婦の世話に当たる助産師の佐藤美代子さんも「医師会のバックアップがあってこそで心強い。ただ衣食住がそろっているだけでは駄目。被災した古里や知人の顔を思い浮かべてしまうようで、時間をかけてケアしたい」ときめ細かな対応を心掛ける。

救援物資のミルクやおむつ、マタニティー用品などは、利用者以外の被災者にも提供する。

利用申し込みは、釜石病院＝0193（25）2011＝、または花巻市沿岸被災市町村支援本部＝0198（24）2111＝へ。問い合わせは、はなネット事務局＝080（1218）7881＝へ。

岩手日日

平成２３年４月２５日付

妊産婦に安らぎを

花巻の主婦ボランティア

孤独癒やす温か支援

妊産婦に安らぎの場を―。花巻市石鳥谷町松林寺の健考館アネックスに避難する、被災した妊産婦を家事ボランティアと呼ばれる市内の主婦らが支えている。多くが子育てを終えた世代。自らの経験を踏まえ、孤独な産後は迎えさせまいと温かな手を差し伸べる。

市指定避難所となっている同アネックスには現在、釜石市の妊婦、産後の女性各1人とその家族が生活する。

家事ボランティアは、花巻市の市民団体お産と地域医療を考える会(新田史実子代表)のメンバーを中心とする15人で構成。

毎日、妊産婦へのあいさつから始まり、哺乳瓶の消毒や洗濯、肌着類の補充まで家事全般を引き受ける。新生児のきょうだいの遊び相手も大切な奉仕だ。午前10時から午後1時、午後1時から同4時の2交代。1回につき1、2人が従事する。

同市西大通り2丁目の佐藤かづ代さん(65)は「他県から嫁いで2人を出産したが、頼る人がおらず孤独だった。被災妊産婦ならなおさら、少しでも力になりたい」と寄り添う。

同アネックスでの受け入れは、花巻市医師会など市内の各団体が連携して実施。日本助産師会県支部中央区会(藤原文子区会長)は午後1時から3時間、沐浴(もくよく)や授乳の指導などに励む。

ボランティアの一人、同市太田の小野寺由美子さん(53)は「次女を助産院で出産した時は何でも相談でき、頼もしかった」と助産師の果たす役割の大きさを語り、同市大谷地の助産師佐藤美代子さん(32)は「本人が実家にいるような温かな雰囲気が大切で、家事ボランティアの存在は大きい」と指摘する。

受け入れの問い合わせは花巻市民活動ネットワーク協議会の若菜多摩英さん(0880・1218・7881)へ。

肌着を整理する家事ボランティア。被災した妊産婦に寄り添う=花巻市石鳥谷町・健考館アネックス

岩手日報
平成23年5月1日付

安心して産前産後を

育児や生活サポート

花巻の女性有志ら石鳥谷で被災の妊産婦ら受け入れ

花巻市の女性有志らは、東日本大震災で被災した妊産婦やその家族を、同市石鳥谷町松林寺の「健考館アネックス」の協力で受け入れている。助産師による育児相談や保健指導、家事ボランティアの生活支援などサポート態勢が充実しており、避難先で産前産後の期間を過ごす女性たちと、震災を乗り越えて育つ命をしっかりと支えている。

安心して産前産後の期間を過ごす母親や乳幼児たち

同市で開業する助産師の提案に、市民活動組織「はなネット」や健考館、市医師会、お産と地域医療を考える会、「ぼくらの復興支援 いわて ゆいっこ」花巻支部などが協力。震災から間もない3月中に活動を始め、4月18日から受け入れを開始した。

利用する母親たちは、宿泊と食事、入浴などのほか、助産師の指導や救援物資からの必要品提供などを受けられる。出産する病院にも同館の無料バスで移動の便宜が図られ、避難生活での出産にもストレスなく臨むことができる。

母親や乳幼児の支援に特化した受け入れ組織だけに、周囲に気兼ねせず、安心して産前産後を過ごせるのが特長。9日に長男を出産した釜石市鵜住居町の岩崎美加子さん(28)は「以前生活していた避難所では、子供が自由に走り回れる場所がなく、困っているお母さんもいた。ここにはプレールームもあるし、個室と風呂、栄養のある食事が3食提供されるのがありがたい」と話し、同じような境遇の母親たちに利用を勧めている。

多くの市民団体による協力で、物資や生活支援以外にも多彩な支援があるのも魅力。27日は子供たちへの読み聞かせなどを行っている東京都の「武蔵野スカーレット」の女性メンバー2人が絵本の朗読を行い、子供たちを楽しませる一幕もあった。

受け入れ期間は、仮設住宅の整備など、被災者が地元に帰る環境が整うまで。申し込みは花巻市沿岸被災市町村支援本部＝0198(24)2111＝、問い合わせは同ネット事務局長の若菜さん＝080(1218)7881＝へ。

岩手日日

平成２３年５月２９日付

編集後記

健考館アネックスを舞台に行われているきめ細かなケアを多くの皆さんに伝えたいとの思いから、事業報告書を作らないかと提起させて頂きました。「え！？　事業報告書なんて作ったことないよ、出来るかな？」との声から始まり、それでも立てた編集方針の下に、スケジュールを確認し、誰がどこを分担していくのかを話し合いました。

報告書は、読んで楽しいストーリー的事業報告にする予定でしたが、編集が進むにつれ、かなり格式あるスタイルへと変身して行きました。そう、この事業報告書は編集委員以外にも、有力な男性助っ人が現れ、目次の構成と挿入する資料が慎重に選択され、編集側が言うのはこそばゆいのですが、見事な冊子に出来上がりました。「はなネット」には、多彩な人材がそろっていることを実感する編集作業でもありました。

男性陣を褒めてばかりも居られませんね。今回の女性編集者の感性も光っています。「未曽有の被災がこれからもないとは限らない。そうした折に、私たちの活動が役に立つような記事にしようね」という思いが込められました。また、書き手は私達だけではなく、「何よりも妊産婦の声も届けたいね」という提案に「良いんじゃない」との賛同で、ご本人のご了解の下、彼女らから退所後に届いたお手紙や、退所時に私たちに置いて行かれたメッセージがこの事業報告には掲載されています。被災を乗り越え、赤ちゃんを胸に抱いて元気に新しい生活の場の巣立って行った妊産婦さん方のお気持ちも読み取れる事業報告になっていると、編集者一同、胸を張っています。

私たちはケアする側ではありましたが、私たちが励まされたり幸せな思いを共にさせて頂いたことをこの編集を通して再度確認もいたした次第です。皆さん、本当にご苦労様でした。そして、ありがとうございました。　（若菜記）

編集委員：小野寺由美子、佐藤かづ代、佐藤美代子、若菜多摩英

３．１１　東日本大震災　被災者支援実践記録

花巻・被災妊産婦等の受入れ事業報告書

～　あかちゃんに　心の花束　おくります　～

発行日　平成 23 年 9 月 25 日

発行者　花巻市民活動ネットワーク協議会

被災妊産婦ケア事業事務局
〒025-0305 花巻市台 2-56-1
Tel　080-1218-7881
E-mail　wakarecall@yahoo.co.jp

ボートレースファンからの贈り物